

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))
アミロイドーシスに関する調査研究班 総括研究報告書

アミロイドーシスに関する調査研究

研究代表者 内木 宏延 福井大学学術研究院医学系部門 分子病理学分野 教授

研究要旨 われわれは平成 29～31 年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制構築、(2) 同診断体制による診断件数、診断確定率、各病型症例数の集計・公表、(3) 診療ガイドライン、診断基準、重症度分類の妥当性・実用性検証と改定、(4) AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究の実施とデータを用いた疫学研究等の実施、(5) 各病型患者のケアマニュアル作成、(6) 専門医対象の臓器別アミロイドーシス診療の手引作成、(7) 患者向け公開講座等アミロイドーシスの啓発活動実施、の 7 項目を目指す。

今年度の成果を上記目的の番号と対応させて記す。(1) 4 月 1 日より研究班ホームページでコンサルテーションの受付を開始すると共に、病理 WG 各施設でも従来通り個別に受け付けることにより、総合的診断体制がスタートした。5 月 15 日には日本病理学会ホームページに当コンサルテーション体制が紹介され、受付数が増加した。(2) 同診断体制の各施設共通集計シートを作成し、2019 年 4 月 1 日～12 月 15 日の診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計した。(3) 全身性アミロイドーシス各病型診断基準の研究班暫定案を作成し、日本循環器学会に承認を申請した。安東班で実施した全身性 AA アミロイドーシスに関する全国疫学調査を論文発表した。(4) 京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請するため、研究実施計画書「研究課題名: オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 Japan Cohort Study of Systemic Amyloidosis (J-COSSA)」を作成した。(5) ファイザー製薬の協力を得て FAP 家族性アミロイドポリニューロパチーの患者ケアマニュアルを作成した。(6) 腎アミロイドーシス WG を中心に、厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班ネフローゼ症候群 WG と合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドライン WG 暫定案を作成した。(7) 熊本にて「道しるべの会」(FAP 家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会) 講演会・総会(7 月 22 日)、交流会(12 月 1 日～2 日)を開催した。

研究分担者	奥田恭章	道後温泉病院リウマチセンター・内科 院長
安東由喜雄 熊本大学大学院生命科学研究部神経内科学分野 教授	西 慎一	神戸大学大学院医学研究科内科学講座腎臓・免疫内科学分野腎臓内科学部門 教授
山田正仁 金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学(神経内科学)教授	畑 裕之	熊本大学大学院生命科学研究部先端生命医療科学部門医療技術科学講座生体情報解析学 教授
玉岡 晃 筑波大学医学医療系大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻神経内科学分野 教授	小池春樹	名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻脳神経病態制御学講座神経内科学 准教授
東海林幹夫 弘前大学大学院医学研究科脳神経内科学講座 教授	島崎千尋	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター血液内科 院長
高市憲明 虎の門病院腎センター 副院長	飯田真介	名古屋市立大学大学院医学研究科生
山田俊幸 自治医科大学医学部臨床検査医学講座 教授		
重松 隆 和歌山県立医科大学医学部腎臓内科学講座 教授		

	体総合医療学講座血液・腫瘍内科分野 教授
植田光晴	熊本大学医学部附属病院神経内科 講師
大橋健一	横浜市立大学大学院医学研究科医学部病態病理学講座/附属病院病理診断科病理部 教授
小野賢二郎	昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門 教授
関島良樹	信州大学医学部内科学第三（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科） 教授
佐野元昭	慶應義塾大学医学部循環器内科学教室 准教授
田原宣広	久留米大学医学部内科学講座心臓・血管内科/循環器病センター 准教授

A. 研究目的

われわれは平成 29～31 年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制構築（平成 31 年 3 月までに）、(2) 同診断体制による診断件数、診断確定率、各病型症例数の集計・公表（平成 32 年 3 月までに）、(3) 診療ガイドライン、診断基準、重症度分類の妥当性・実用性検証と改定（平成 32 年 3 月までに）、(4) AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究の実施とデータを用いた疫学研究等の実施（平成 32 年 3 月までに）、(5) 各病型患者のケアマニュアル作成（平成 32 年 3 月までに）、(6) 専門医対象の臓器別アミロイドーシス診療の手引作成（平成 32 年 3 月までに）、(7) 患者向け公開講座等アミロイドーシスの啓発活動実施（平成 32 年 3 月までに）の 7 項目を目指す。

本研究計画は、「難病の患者に対する医療等に関する法律」（難病法）の求める以下の課題を直接解決するものであり、厚生労働行政の施策に直接活用できる成果を期待できると考える。(a) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制の構築により、正確な早期診断や、適切な施設での各病型に応じた最新の診療が可能になる。(b) 信頼性の高いオールジャパンの診断体制を基盤としたレジストリ構

築により、全国的にバランスの取れた、特定の地域に偏らないコホート研究が可能となり、レジストリ研究の優れたモデルとなることが期待される。(c) アミロイドーシス診断基準・重症度分類・診療ガイドラインの改訂作業により、アミロイドーシス医療の水準向上（均てん化）に資すると共に、新規に発症するアミロイドーシス患者の実態を把握できる。(d) 関連学会との連携体制を構築し、アミロイドーシスの疾患概念、早期診断、および最新の治療に関し、関連学会や非専門医、患者、一般国民への普及・啓発を推進できる。(e) アミロイドーシス患者ケアマニュアルの作成等により、患者の療養生活環境整備や QOL 向上に資する事ができる。(f) 指定難病データベース（平成 29 年度中に稼働開始予定）の構築に向けたデータを提供できる。

B. 研究方法

【項目番号は研究の目的に対応】(1)～(6)の各項目は、第 1 回研究会議（平成 30 年 8 月 25 日、松本）第 2 回研究会議（平成 31 年 2 月 15 日、東京）および各 WG で随時開催するメール会議で議論・決定した。(7)は研究分担者の安東、植田（いずれも熊本大学）を中心に実施した。

（倫理面への配慮）

(1)に関し、個人情報保護には細心の注意を払う。また、オプトアウトにより対象患者に研究不参加の機会を与える。福井大学医学系研究倫理審査委員会で「病理検体のアミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の構築」の受審・承認を得た（平成 29 年 12 月 15 日）。これを基に病理 WG 各施設で順次倫理審査を受審し承認を得た。本コンサルテーション体制の精度管理を行うため、われわれは診断総数及び各病型症例数（免疫染色で確定できずプロテオーム解析を実施した症例を含む）のみ集計する。このためコンサルテーション依頼施設での倫理審査は要求しない。(4)に関し、京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請する。

C. 研究結果

【項目番号は研究の目的に対応】(1) 4月1日より

研究班ホームページでコンサルテーションの受付を開始すると共に、病理WG各施設でも従来通り個別に受け付けることにより、総合的診断体制がスタートした。5月15日には日本病理学会ホームページに当コンサルテーション体制が紹介され、受付数が増加した。(2) 同診断体制の各施設共通集計シートを作成し、2019年4月1日～12月15日の診断件数(425件)、診断確定率(94.8%)、各病型症例数(AA 15, ALκ 53, ALλ 132, ATTR 160, Aβ2M 1, others 5)を集計した。(3) 全身性アミロイドーシス各病型(AL/AH, ATTRv, ATTRwt, 他の遺伝性)に対する診断基準の研究班暫定案を作成し、日本循環器学会に承認を申請した。安東班で実施した全身性AAアミロイドーシスに関する全国疫学調査を論文発表した。(4) 京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請するため、研究実施計画書「研究課題名：オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究Japan Cohort Study of Systemic Amyloidosis (J-COSSA)」を作成した。(5) ファイザー製薬の協力を得てFAP家族性アミロイドポリニューロパチーの患者ケアマニュアルを作成した。(6) 腎アミロイドーシスWGを中心に、厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班ネフローゼ症候群WGと合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドラインWG暫定案を作成した。(7) 熊本にて「道しるべの会」(FAP家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会)講演会・総会(7月22日)、交流会(12月1日～2日)を開催した。

D. 考察

【項目番号は研究の目的に対応】(1) ロンドン大学医学部 Centre for Amyloidosis and Acute Phase Proteins を始め、国内外からアミロイドーシスのコンサルテーションを受け付ける referral centre は世界に数カ所存在するが、国内数カ所の施設で抗体を共有し、ネットワークを結んでコンサルテーションを受け付ける体制は、世界的に見ても類を見ない独創的取り組みである。次年度以降、病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制を維持・発展させる。(2) 次年度以降も、同診断体制による診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計・公表する。(3)

次年度、関連学会(日本循環器学会、日本神経学会、日本血液学会、日本腎臓学会、日本アミロイドーシス学会等)で承認を得た後、診断基準を公表する。現在アミロイドーシス各病型に対応する系統的な国際診断基準自体が無く、本診断基準の策定は、日本国内はもとより、英文論文による発表などを通して国際的にも意義のある取り組みとなり得る。(4) 次年度以降、AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究を開始すると共に、データを用いた疫学研究等を実施する。(5) 今年度研究会議や各WGで行った議論を基に、内容等の検討をさらに進め、次年度以降、各病型アミロイドーシス患者のケアマニュアルを公表する。(6) 今年度研究会議や各WGで行った議論を基に、内容等の検討をさらに進め、次年度以降、心、腎アミロイドーシス診療の手引を公表する。(7) 熊本にて「道しるべの会」講演会・総会、交流会を引き続き開催すると共に、他地域の家族会も引き続き活動を続け、全国的な交流を促進する。

E. 結論

研究班ホームページでコンサルテーションの受付を開始することにより、総合的診断体制を開始し、診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計した。全身性アミロイドーシス各病型診断基準の研究班暫定案を作成し、日本循環器学会に承認を申請した。安東班で実施した全身性AAアミロイドーシスに関する全国疫学調査を論文発表した。京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請するため、研究実施計画書「研究課題名：オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 Japan Cohort Study of Systemic Amyloidosis (J-COSSA)」を作成した。FAP家族性アミロイドポリニューロパチーの患者ケアマニュアルを作成した。厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班と合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドライン暫定案を作成した。熊本にて「道しるべの会」(FAP家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会)講演会・総会、交流会を開催した。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

内木宏延

1) Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H: Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol Commun* 7(1): 12, 2019.

2) Adachi M, Noji M, So M, Sasahara K, Kardos J, Naiki H, Goto Y: Aggregation-phase diagrams of β 2-microglobulin reveal temperature and salt effects on competitive formation of amyloids versus amorphous aggregates. *J Biol Chem* 293(38): 14775-14785, 2018.

安東由喜雄

1) Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H: Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol Commun* 7(1): 12, 2019.

2) Nakamura M, Misumi Y, Nomura T, Oka W, Isoguchi A, Kanenawa K, Masuda T, Yamashita T, Inoue Y, Ando Y, Ueda M: Extreme Adhesion Activity of Amyloid Fibrils Induces Subcutaneous Insulin Resistance. *Diabetes* 68(3): 609-616, 2019.

3) Kameyama H, Uchimura K, Yamashita T, Kuwabara K, Mizuguchi M, Hung SC, Okuhira K, Masuda T, Kosugi T, Ohgita T, Saito H, Ando Y, Nishitsuji K: The accumulation of heparan sulfate S-domains in kidney transthyretin deposits accelerates fibril formation and promotes cytotoxicity. *Am J Pathol* 189(2): 308-319, 2019.

4) Kato TS, Ikeda N, Maurer MS, Ando Y, Tanno K: Transthyretin stabilizer is associated with expanding apical sparing area and improving global cardiac function in a patient with wild-type cardiac

amyloidosis *Circ J* 83(3): 690, 2019.

5) Tasaki M, Ueda M, Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y: A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1. *J Pathol* 2018 in press.

6) Yamamoto H, Hashimoto T, Kawamura S, Hiroe M, Yamashita T, Ando Y, Yokochi T: Hereditary cardiac amyloidosis associated with Pro24Ser transthyretin mutation: a case report. *J Med Case Rep* 12(1): 370, 2018.

7) Tsuda Y, Yamanaka K, Toyoshima R, Ueda M, Masuda T, Misumi Y, Ogura T, Ando Y: Development of transgenic *Caenorhabditis elegans* expressing human transthyretin as a model for drug screening. *Sci Rep* 8(1): 17884, 2018.

8) Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y: Origin of sporadic late-onset hereditary ATTR Val30Met amyloidosis in Japan. *Amyloid* 25(3): 143-147, 2018.

9) Masuda T, Ueda M, Kitajima M, Morita K, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Yamashita Y, Ando Y: Teaching NeuroImages: Morphology of lumbosacral dorsal root ganglia and plexus in hereditary transthyretin amyloidosis. *Neurology* 91(19): e1834-e1835, 2018.

10) Hirakawa K, Takashio S, Marume K, Yamamoto M, Hanatani S, Yamamoto E, Sakamoto K, Izumiya Y, Kaikita K, Oda S, Utsunomiya D, Shiraiishi S, Ueda M, Yamashita T, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K: Non-Val30Met mutation, septal hypertrophy, and cardiac denervation in patients with mutant transthyretin amyloidosis. *ESC Heart Fail* 6(1): 122-130, 2018.

11) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y: First nationwide survey of 199 patients with amyloid A amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57(23): 3351-3355, 2018.

12) Nakano Y, Tadokoro K, Ohta Y, Sato K, Takemoto M, Hishikawa N, Yamashita T, Yamashita T, Ando Y, Abe K: Two cases of late onset familial amyloid

polyneuropathy with a Glu61Lys transthyretin variant. *J Neurol Sci* 390: 22-25, 2018.

13) Ikeda T, Masuda T, Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Shinriki S, Ando Y: Unwanted road to anaemia in transthyretin familial amyloid polyneuropathy may continue irrespective of tafamidis treatment. *Ann Clin Biochem* 55(5): 571-575, 2018.

14) Tsuda N, Shiraishi S, Oda S, Ogasawara K, Sakamoto F, Tomiguchi S, Fujisue K, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Ando Y, Yamashita Y: Utility of single-photon emission computed tomography/computed tomography fusion imaging with 99 mTc-pyrophosphate scintigraphy in the assessment of cardiac transthyretin amyloidosis. *Circ J* 82(7): 1970-1971, 2018.

15) Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K, Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y: Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan. *Nephrology (Carlton)* 23(7): 640-645, 2018.

16) 山下太郎, 植田光晴, 安東由喜雄: 手根管症候群に潜む疾患の鑑別と治療 TTR-FAP: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー. *末梢神経* 29(2): 224-231, 2018.

17) 三隅洋平, 安東由喜雄: siRNA を用いた核酸医薬品の開発状況. *Medical Science Digest* 45(1): 17-20, 2019.

18) 山下太郎, 安東由喜雄: アミロイドーシスの最近の知見. *皮膚病診療* 40(11): 1086-1092, 2018.

19) 植田光晴, 安東由喜雄: 遺伝性ニューロパチー 家族性アミロイドポリニューロパチー. *Clinical Neuroscience* 36(9): 1075-1079, 2018.

20) 植田光晴, 三隅洋平, 増田曜章, 津田幸元, 井上泰輝, 野村隼也, 山下太郎, 安東由喜雄: トランスサイレチンフラグメントのアミロイド形成および細胞毒性の解析. *末梢神経* 29(1): 42-49, 2018.

21) 三隅洋平, 安東由喜雄: 主要疾患としびれ感, その対応 アミロイドニューロパチー. *Clinical Neuroscience* 36(4): 464-466, 2018.

山田正仁

1) Buxbaum JN, Brannagan III TH, Cisneros-Barroso E, Buades J, Conceição I, Kyriakides T, Obici L, Merlini G, Planté-Bordeneuve V, Rousseau A, Sekijima Y, Waddington M, Yamada M (*The consortium for the analysis of ocular TTR deposition): Transthyretin deposition in the eye in the era of effective therapy for hereditary amyloid polyneuropathy. *Amyloid* 24:1-5, 2019.

2) Hamaguchi T, Komatsu J, Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Aoki S, Ikeuchi T, Yamada M: Cerebral hemorrhagic stroke associated with cerebral amyloid angiopathy in young adults about 3 decades after neurosurgeries in their infancy. *J Neurol Sci* 399:3-5, 2019.

玉岡 晃

1) Miyake Z, Tomidokoro Y, Tsurubuchi T, Matsumura A, Sakamoto N, Noguchi M, Tamaoka A: Intravascular large B-cell lymphoma presenting with hearing loss and dizziness: A case report. *Medicine (Baltimore)* 98(7): e14470, 2019.

2) Shiraiwa N, Tamaoka A, Ohkoshi N: Clinical features of drug-induced Parkinsonism. *Neurol Int* 10(4): 7877, 2018.

3) Yamamoto F, Taniguchi K, Mamada N, Tamaoka A, Kametani F, Lakshmana MK, Araki W: TFEB-mediated enhancement of the autophagy-lysosomal pathway dually modulates the process of amyloid β -protein generation in neurons. *Neuroscience* 402: 11-22, 2019.

4) Tsuji H, Ayako S, Takayashiki N, Irie T, Itoi S, Kodama T, Kaji Y, Matsuoka R, Mashiko R, Shibata Y, Ishii A, Siato Y, Tamaoka A: Meningeal carcinomatosis presenting with leukoencephalopathy-like imaging findings. *eNeurologicalSci* 14: 21-23, 2019.

5) Nakamagoe K, Yamada S, Kawakami R, Miyake Z, Tozaka N, Okune S, Takeda H, Koganezawa T, Tamaoka A: Vestibular dysfunction as cortical damage with amyotrophic lateral sclerosis. *J Neurol Sci* 397: 4-8, 2018.

6) Tomono T, Hirai Y, Okada H, Miyagawa Y, Adachi K, Sakamoto S, Kawano Y, Chono H, Mineno J, Ishii

- A, Shimada T, Onodera M, Tamaoka A, Okada T: Highly efficient ultracentrifugation-free chromatographic purification of recombinant AAV serotype 9. *Mol Ther Methods Clin Dev* 11: 180-190, 2018.
- 7) Hosaka T, Yamashita T, Teramoto S, Hirose N, Tamaoka A, Kwak S: ADAR2-dependent A-to-I RNA editing in the extracellular linear and circular RNAs. *Neurosci Res* 2018, in press.
- 8) Miyake Z, Ishii K, Tamaoka A: Hypothyroidism induced by phenytoin and gabapentin: A Case Report. *Medicine (Baltimore)* 97(43): e12938, 2018.
- 9) Miyake Z, Nakamagoe K, Ezawa N, Yoshinaga T, Hashimoto R, Sato T, Sekijima Y, Tamaoka A: Late-onset transthyretin (TTR)-familial amyloid polyneuropathy (FAP) with a long disease duration from non-endemic areas in Japan. *Intern Med* 58(5): 713-718, 2019.
- 10) Yamada E, Ishikawa E, Watanabe R, Matsumura H, Sakamoto N, Ishii A, Tamaoka A, Hattori K, Obara N, Chiba S, Nakamagoe K, Matsuda M, Tsurubuchi T, Tomidokoro Y, Akutsu H, Zaboronok A, Shibuya M, Takano S, Matsumura A: Random skin biopsies before brain biopsy for intravascular large B-cell lymphoma. *World Neurosurg* 121: e364-e369, 2019.
- 11) Ishii K, Nemoto K, Iwasaki N, Takeda T, Masuda T, Shibata Y, Tamaoka A: Decreased regional cerebral blood flow in patients with diphenylarsinic acid intoxication. *Eur J Neurol* 26(1): 136-141, 2019.
- 12) Terada M, Suzuki G, Nonaka T, Kametani F, Tamaoka A, Hasegawa M: The effect of truncation on prion-like properties of α -synuclein. *J Biol Chem* 293(36): 13910-13920, 2018.
- 13) Nakamagoe K, Yanagiha H, Miyake Z, Kondo Y, Hiyama T, Ishii A, Kaji Y, Oshika T, Sumida T, Tamaoka A: Monocular oculomotor nerve disorder manifesting as cranial neuropathy in systemic lupus erythematosus. *Intern Med* 57(23): 3445-3449, 2018.
- 14) Miyake Z, Ishii K, Matsuo H, Higuchi O, Tamaoka A: Isolated bilateral abducens paralysis without ptosis in an anti-LDL receptor-related protein 4 antibody-positive patient treated effectively with steroid-pulse therapy. *J Neurol Sci* 390: 42-43, 2018.
- 15) Masuda T, Ishii K, Morishita Y, Iwasaki N, Shibata Y, Tamaoka A: Hepatic histopathological changes and dysfunction in primates following exposure to organic arsenic diphenylarsinic acid. *J Toxicol Sci* 43(5): 291-298: 2018.
- 16) Kuwabara S, Misawa S, Mori M, Iwai Y, Ochi K, Suzuki H, Nodera H, Tamaoka A, Iijima M, Toda T, Yoshikawa H, Kanda T, Sakamoto K, Kusunoki S, Sobue G, Kaji R; Glovenin-I MMN Study Group: Intravenous immunoglobulin for maintenance treatment of multifocal motor neuropathy: A multi-center, open-label, 52-week phase 3 trial. *J Peripher Nerv Syst* 23(2): 115-119, 2018.
- 17) Yamada K, Shiraishi H, Oki E, Ishige M, Fukao T, Hamada Y, Sakai N, Ochi F, Watanabe A, Kawakami S, Kuzume K, Watanabe K, Sameshima K, Nakamagoe K, Tamaoka A, Asahina N, Yokoshiki S, Miyakoshi T, Ono K, Oba K, Isoe T, Hayashi H, Yamaguchi S, Sato N: Open-label clinical trial of bezafibrate treatment in patients with fatty acid oxidation disorders in Japan. *Mol Genet Metab Rep* 15: 55-63, 2018.
- 18) Ishiura H, Doi K, Mitsui J, Yoshimura J, Matsukawa MK, Fujiyama A, Toyoshima Y, Kakita A, Takahashi H, Suzuki Y, Sugano S, Qu W, Ichikawa K, Yurino H, Higasa K, Shibata S, Mitsue A, Tanaka M, Ichikawa Y, Takahashi Y, Date H, Matsukawa T, Kanda J, Nakamoto FK, Higashihara M, Abe K, Koike R, Sasagawa M, Kuroha Y, Hasegawa N, Kaneshawa N, Kondo T, Hitomi T, Tada M, Takano H, Saito Y, Sanpei K, Onodera O, Nishizawa M, Nakamura M, Yasuda T, Sakiyama Y, Otsuka M, Ueki A, Kaida KI, Shimizu J, Hanajima R, Hayashi T, Terao Y, Inomata-Terada S, Hamada M, Shirota Y, Kubota A, Ugawa Y, Koh K, Takiyama Y, Ohsawa-Yoshida N, Ishiura S, Yamasaki R, Tamaoka A, Akiyama H, Otsuki T, Sano A, Ikeda A, Goto J, Morishita S, Tsuji S: Expansions of intronic TTTCA and TTTTA repeats in benign adult familial myoclonic epilepsy. *Nat Genet* 50(4): 581-590, 2018.
- 19) 森山哲也, 中馬越清隆, 玉岡晃: バセドウ病を合併し、抗 CCP 抗体が陽性であった無菌性髄膜炎. *日本医事新報* 4949: 10-11, 2019.
- 20) 武田勇人, 三宅善嗣, 辻浩史, 玉岡晃: 仙骨硬膜外ブロック後下肢運動感覚障害の造悪が認めら

れた脊髄動静脈瘤. 日本医事新報 4936: 10-11, 2018.

21)玉岡晃: 認知症の脳脊髄液診断. 実施診療のための最新認知症学. 日本臨床 76(増刊号 1): 44-49, 2018.

東海林幹夫

1) Preische O, Schultz SA, Apel A, Kuhle J, Kaeser SA, Barro C, Gräber S, Kuder-Buletta E, LaFougere C, Laske C, Vöglein J, Levin J, Masters CL, Martins R, Schofield PR, Rossor MN, Graff-Radford NR, Salloway S, Ghetti B, Ringman JM, Noble JM, Chhatwal J, Goate AM, Benzinger TLS, Morris JC, Bateman RJ, Wang G, Fagan AM, McDade EM, Gordon BA, Jucker M; Dominantly Inherited Alzheimer Network: Serum neurofilament dynamics predicts neurodegeneration and clinical progression in presymptomatic Alzheimer's disease. *Nat Med* 25(2): 277-283, 2019.

2) Seino Y, Nakamura T, Kawarabayashi T, Hirohata M, Narita S, Wakasaya Y, Kaito K, Ueda T, Harigaya Y, Shoji M: Cerebrospinal fluid and plasma biomarkers in neurodegenerative diseases. *J Alzheimers Dis* 68(1): 395-404, 2019.

3) Nakamura T, Kawarabayashi T, Seino Y, Hirohata M, Nakahata N, Narita S, Itoh K, Nakaji S, Shoji M: Aging and APOE-ε4 are determinative factors of plasma Aβ42 levels. *Ann Clin Transl Neurol* 5(10): 1184-1191, 2018.

4) Iwatsubo T, Iwata A, Suzuki K, Ihara R, Arai H, Ishii K, Senda M, Ito K, Ikeuchi T, Kuwano R, Matsuda H; Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative, Sun CK, Beckett LA, Petersen RC, Weiner MW, Aisen PS, Donohue MC; Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative: Japanese and North American Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative studies: Harmonization for international trials. *Alzheimers Dement* 14(8): 1077-1087, 2018.

高市憲明

1) Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K,

Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y: Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan. *Nephrology (Carlton)* 23(7): 640-645, 2018.

山田俊幸

1) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y: First nationwide survey of 199 patients with amyloid A amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57: 3351-3355, 2018.

2) Tanaka M, Kawakami T, Okino N, Sasaki K, Nakanishi K, Takase H, Yamada T, Mukai T: Acceleration of amyloid fibril formation by carboxyl-terminal truncation of human serum amyloid A. *Arch Biochem Biophys* 639: 9-15, 2018.

重松 隆

1) Ishida K, Ashizawa N, Matsumoto K, Kobashi S, Kurita N, Shigematsu T, Iwanaga T: Novel bisphosphonate compound FYB-931 preferentially inhibits aortic calcification in vitamin D3-treated rats. *J Bone Miner Metab* 2019, in press.

2) Kawakami K, Ohya M, Shigematsu T: The prevention and treatment of vascular calcification. *Clinical Calcium* 29(2): 231-236, 2019

3) Shoji T, Inaba M, Fukagawa M, Ando R, Emoto M, Fujii H, Fujimori A, Fukui M, Hase H, Hashimoto T, Hirakata H, Honda H, Hosoya T, Ikari Y, Inaguma D, Inoue T, Isaka Y, Iseki K, Ishimura E, Itami N, Ito C, Kakuta T, Kawai T, Kawanishi H, Kobayashi S, Kumagai J, Maekawa K, Masakane I, Minakuchi J, Mitsui K, Mizuguchi T, Morimoto S, Murohara T, Nakatani T, Negi S, Nishi S, Nishikawa M, Ogawa T, Ohta K, Ohtake T, Okamura M, Okuno S, Shigematsu T, Sugimoto T, Suzuki M, Tahara H, Takemoto Y, Tanaka K, Tominaga Y, Tsubakihara Y, Tsujimoto T, Tsuruya K, Ueda S, Watanabe Y, Yamagata K, Yamakawa T, Yano S, Yokoyama K, Yorioka N, Yoshiyama M, Nishizawa Y: Effect of oral alfacalcidol on clinical outcomes in patients without secondary hyperparathyroidism receiving maintenance hemodialysis : The J-DAVID randomized clinical trial. *JAMA* 320(22): 2325-2334, 2018.

4) Efficacy and Safety of Once-Monthly Risedronate in Osteoporosis Subjects with Mild to Moderate Chronic Kidney Disease: A Post Hoc Subgroup Analysis of a Phase III Trial in Japan. Toshitsugu Sugimoto, Daisuke Inoue, Masayuki Maehara, Ichiro Oikawa, Takashi Shigematsu, Yoshiki Nishizawa. *J. Bone Miner Metab* 2019 in press.

5) Shinichi Nishi, Junichi Hoshino, Suguru Yamamoto, Shunsuke Goto, Hideki Fujii, Yoshifumi Ubara, Yoshihiro Motomiya, Hiroyuki Morita, Kenmei Takaichi, Kunihiro Yamagata, Takashi Shigematsu, Mitsuharu Ueda, Yukio Ando: Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan. *Nephrology* 23(7): 640-645, 2018.

6) Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Sonou, Kouji Okuda, Toru Mima, Yoshinori Tone, Shigeo Negi, Yasushi Saika, Takashi Shigematsu: Intravenous maxacalcitol therapy correlates with serum fibroblast growth factor 23 levels in hemodialysis patients independent of serum phosphate or calcium levels. *Contrib Nephrol* 196: 44-51, 2018.

7) Yuko Iwashita, Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Sonou, Kazuki Kawakami, Yuri Nakashima, Takuro Yano, Yu Iwashita, Toru Mima, Shigeo Negi, Kaoru Kubo, Koichi Tomoda, Toshitaka Odamaki, Takashi Shigematsu: Dietary changes involving *Bifidobacterium longum* and other nutrients delays CKD progression. *Am J Nephrol* 47(5): 325-332, 2018.

8) Takashi Shigematsu, Masafumi Fukagawa, Keitaro Yokoyama, Takashi Akiba, Akifumi Fujii, Motoi Odani, Tadao Akizawa: Long-term effects of etelcalcetide as intravenous calcimimetic therapy in hemodialysis patients with secondary hyperparathyroidism. *Clin Exp Nephrol* 22: 426-436, 2018.

奥田恭章

1) Y Okuda, T Yamada, M Ueda, Y Ando: First nationwide survey of 199 reactive amyloid A amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57: 3351-3355, 2018.

2) Y Okuda: AA amyloidosis – Benefits and prospects

of IL-6 Inhibitors. *Mod Rheumatol* 2018, in press.

3) S Tsujimoto, S Mokuda, K Matoba, A Yamada, K Jouyama, Y Murata, Y Ozaki, T Ito, S Nomura, Y Okuda: The prevalence of endoscopic gastric mucosal damage in patients with rheumatoid arthritis. *PLoS One* 13(7): e0200023, 2018.

畑 裕之

1) Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekishima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y. Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan. *Intern Med.* 2018 Jan 15;57(2):181-187. doi: 10.2169/internalmedicine.9206-17. [Epub ahead of print]

2) Eri Fujii, Yuki Inada, Misaki Kakoki, Nao Nishimura, Shinya Endo, Shiho Fujiwara, Naoko Wada, Yawara Kawano, Yutaka Okuno, Toshiya Sugimoto, Hiroyuki Hata. Bufalin induces DNA damage response under hypoxic condition in myeloma cells. *Oncol Lett* 15(5): 6443-6449.

3) Kasamatsu T, Ozaki S, Saitoh T, Konishi J, Sunami K, Itagaki M, Asaoku H, Cho T, Handa H, Hagiwara S, Wakayama T, Negoro A, Takezako N, Harada N, Kuroda Y, Nakaseko C, Miyake T, Inoue N, Hata H, Shimazaki C, Ohno T, Kuroda J, Murayama T, Kobayashi T, Abe M, Ishida T, Nagura E, Shimizu K. Unsuppressed serum albumin levels may jeopardize the clinical relevance of the international staging system to patients with light chain myeloma. *Hematol Oncol* 36(5): 792-800, 2018.

4) Oda S, Nakaura T, Utsunomiya D, Nakaura T, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Ueda M, Yamashita T, Ando Y, Kawano Y, Okuno Y, Hata H, Yamashita Y. Role of Noninvasive Diagnostic Imaging in Cardiac Amyloidosis: A Review *Cardiovascular Imaging Asia* 2018 2(2):97-106.

5) Endo S, Nishimura N, Kawano Y, Ueno N, Ueno S, Tatetsu H, Komohara Y, Takeya M, Hata H, Mitsuya H, Masao M. MUC1/KL-6 expression confers an aggressive phenotype upon myeloma cells. *Biochem Biophys Res Commun.* 2018 Nov 9. pii: S0006-291X (18)32414-8. doi: 10.1016/j.bbrc.2018.11.016.

6) 河野和, 松岡雅雄, 畑裕之: AL アミロイドーシスの診断と治療の進歩. 日本臨床 76(7): 1242-1248, 2018.

小池春樹

- 1) Koike H, Myelopathy and neuropathy associated with alcoholism. In: Preedy VR, editor. *The Neuroscience of Alcohol: Mechanisms and Treatment*, Elsevier, Amsterdam, in press.
- 2) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Evolution of amyloid fibrils in hereditary transthyretin amyloidosis: an ultrastructural study. *Amyloid*, in press.
- 3) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary transthyretin amyloidosis with non-Val30Met mutation. *Amyloid*, in press.
- 4) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Yasuda T, Mukai E, Date Y, Shiomi K, Nakazato M, Katsuno M, Sobue G. Common clinicopathological features in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis (Ala97Gly, Val94Gly, and Val30Met). *Amyloid*, in press.
- 5) Koike H, Katsuno M. Ultrastructure in transthyretin amyloidosis: from pathophysiology to therapeutic insights. *Biomedicine* 7(1): 11, 2019
- 6) Koike H, Katsuno M, Sobue G. New teased-fibre definitions represent specific mechanisms of neuropathy. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 90(2): 124, 2019
- 7) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in CIDP. *Neurology* 91(23): 1051-1060, 2018
- 8) Koike H, Katsuno M, Sobue G. Deciphering mechanism and spectrum of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy by morphology. *Clin Exp Neuroimmunol* 9(1): 35-46, 2018
- 9) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Sakurai T, Shimohata T, Katsuno M, Sobue G. The morphology of amyloid fibrils and their impact on tissue damage in hereditary transthyretin amyloidosis:

An ultrastructural study. *J Neurol Sci* 394: 99-106, 2018

- 10) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Atsuta N, Nakamura T, Hiayama M, Ogata H, Yamasaki R, Kira JI, Katsuno M, Sobue G. Restoration of a conduction block after the long-term treatment of CIDP with anti-neurofascin 155 antibodies: follow-up of a case over 23 years. *Intern Med* 57: 2061-2066, 2018
- 11) Koike H, Yasuda T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M. Systemic angiopathy and axonopathy in hereditary transthyretin amyloidosis with Ala97Gly (p. Ala117Gly) mutation: a post-mortem analysis. *Amyloid* 25(2): 141-142, 2018
- 12) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Widespread cardiac and vasomotor autonomic dysfunction in von-Val30Met hereditary transthyretin amyloidosis. *Intern Med* 57(23): 3365-3370, 2018
- 13) Nakamura T, Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Cardiovascular autonomic functions in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis with Val30Met mutation. *Amyloid*, in press.
- 14) Adams D, Koike H, Slama M, Coehlo T. Familial amyloid polyneuropathies: a model of medical progress for a fatal disease. *Nat Rev Neurol*, in press.
- 15) Kondo N, Tohnai G, Sahashi K, Iida M, Nakatsuji J, Tsutsumi Y, Hashizume A, Adachi H, Koike H, Shinjo K, Kondo Y, Sobue G, Katsuno M. DNA methylation inhibitor attenuates polyglutamine-induced neurodegeneration by regulating Hes5. *EMBO Mol Med*, in press.
- 16) Ando T, Iijima M, Fukami Y, Nishi R, Ikeda S, Yokoi S, Kawagashira Y, Koike H, Muro Y, Katsuno M. Vasculitic neuropathy with anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibody. *Muscle Nerve*, in press.
- 17) Misawa S, Kuwabara S, Sato Y, Yamaguchi N, Nagashima K, Katayama K, Sekiguchi Y, Iwai Y, Amino H, Suichi T, Yokota T, Nishida Y, Kanouchi T, Kohara N, Kawamoto M, Ishii J, Kuwahara M, Suzuki H, Hirata K, Kokubun N, Masuda R, Kaneko J, Yabe I,

- Sasaki H, Kaida KI, Takazaki H, Suzuki N, Suzuki S, Nodera H, Matsui N, Tsuji S, Koike H, Yamasaki R, Kusunoki S; Japanese Eculizumab Trial for GBS (JET-GBS) Study Group. Safety and efficacy of eculizumab in Guillain-Barré syndrome: a multicentre, double-blind, randomised phase 2 trial. *Lancet Neurol* 17(6): 519-529, 2018.
- 18) Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koike H, Yamada M, Ando Y. First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan. *Amyloid* 25(1): 8-10, 2018
- 19) Ikumi K, Tsuboi T, Atsuta N, Takeuchi K, Koike H, Katsuno M. Long-standing overt ventriculomegaly without aqueductal stenosis: a case report. *Neurol Clin Neurosci* 6(2): 42-44, 2018
- 20) Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ishii T, Ando Y. Diagnosis and management of transthyretin familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm. *Orphanet J Rare Dis* 13(1): 6, 2018
- 21) Sato T, Terasawa Y, Higa H, Matsuno H, Arai A, Omoto S, Mitsumura H, Toyoda C, Koike H, Iguchi Y. Nerve ultrasound, electrophysiological, and clinical changes in treatment-naïve chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: a case report. *J Clin Neurophysiol* 36(1): 82-84, 2019
- 22) Watanabe E, Fujita T, Shimono M, Koike H, Yasumoto S, Hirose S. Recurrent autonomic and sensory neuropathy in a patient with anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies. *eNeurologicalSci* 12: 36-38, 2018.
- 23) 小池春樹: 多発ニューロパチー. In: 福井 次矢, 高木 誠, 小室一成, editor. 今日の治療指針 2018 年版, 医学書院, 東京, 954-955, 2018.
- 24) 小池春樹: 血管炎性ニューロパチー. In: 水澤英洋, 山口修平, 園生雅弘, editor. 神経疾患最新の治療 2018-2020, 南江堂, 東京, 257-258, 2018.
- 25) 小池春樹: 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーに対する免疫グロブリン維持療法. In: 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭, editor. Annual Review 神経 2018, 中外医学社, 東京, 257-262, 2018.
- 26) 小池春樹: ジカウイルス感染症とギラン・バレー症候群. In: 鈴木則宏, 荒木信夫, 宇川義一, 桑原 聡, 塩川芳昭, editor. Annual Review 神経 2019, 中外医学社, 東京, 256-262, 2019.
- 27) 小池春樹: ビタミンB1ニューロパチーはどのような患者で疑いますか? どのように治療しますか? . In: 神田隆, editor. 末梢神経障害 (神経内科 Clinical Questions & Pearls), 中外医学社, 東京, 226-230, 2018.
- 28) 小池春樹: 体幹部のニューロパチー. *脊椎脊髄ジャーナル* 32(1): 27-32, 2019.
- 29) 小池春樹: ジカウイルスとギラン・バレー症候群. *BRAIN and NERVE* 70(2): 113-120, 2018.
- 30) 小池春樹: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー (TTR-FAP); 診断と新規治療法. *循環器内科* 84(4): 462-468, 2018.
- 31) 小池春樹: ニューロパチー. *産科と婦人科* 85(10): 1177-1181, 2018.
- 32) 小池春樹: 自己免疫性自律神経障害. *CLINICAL NEUROSCIENCE* 36(9): 1042-1045, 2018.
- 33) 小池春樹: 急性自律神経性感覚性ニューロパチー. *自律神経* 55(2): 116-119, 2018.
- 34) 中村友彦、小池春樹、勝野雅央: ポリグルタミン病における末梢神経障害(SBMAとSCA3). *神経内科* 89(5): 473-480, 2018.
- 島崎千尋
- 1) Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekijima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y: Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57: 181-187, 2018.
- 2) Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C: Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 6: 232-236, 2019.
- 飯田真介
- 1) Iida S, Wakabayashi M, Tsukasaki K, Miyamoto K,

- Maruyama D, Yamamoto K, Takatsuka Y, Kusumoto S, Kuroda J, Ando K, Kikukawa Y, Masaki Y, Kobayashi M, Hanamura I, Asai H, Nagai H, Shimada K, Tsukamoto N, Inoue Y, Tobinai K: Bortezomib plus dexamethasone versus thalidomide plus dexamethasone for relapsed or refractory multiple myeloma. *Cancer Sci* 109(5): 1552-1561, 2018.
- 2) Yoshida T, Ri M, Kinoshita S, Narita T, Totani H, Ashour R, Ito A, Kusumoto S, Ishida T, Komatsu H, Iida S: Low expression of neural adhesion molecule, CD56, is associated with poor efficacy of bortezomib plus dexamethasone therapy in multiple myeloma. *PLoS One* 13(5): e0196780, 2018.
- 3) Kinoshita S, Ri M, Kanamori T, Aoki S, Yoshida T, Narita T, Totani H, Ito A, Kusumoto S, Ishida T, Komatsu H, Iida S: Potent antitumor effect of combination therapy with sub-optimal doses of Akt inhibitors and pomalidomide plus dexamethasone in multiple myeloma. *Oncol Lett* 15(6): 9450-9456, 2018.
- 植田光晴**
- 1) Endo Y, Hasegawa K, Nomura R, Arishima H, Kikuta KI, Yamashita T, Inoue Y, Ueda M, Ando Y, Wilson MR, Hamano T, Nakamoto Y, Naiki H: Apolipoprotein E and clusterin inhibit the early phase of amyloid- β aggregation in an in vitro model of cerebral amyloid angiopathy. *Acta Neuropathol Commun* 7(1): 12, 2019.
- 2) Nakamura M, Misumi Y, Nomura T, Oka W, Isoguchi A, Kanenawa K, Masuda T, Yamashita T, Inoue Y, Ando Y, Ueda M: Extreme Adhesion Activity of Amyloid Fibrils Induces Subcutaneous Insulin Resistance. *Diabetes* 68(3): 609-616, 2019.
- 3) Tasaki M, Ueda M, Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y: A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1. *J Pathol* 2018 in press.
- 4) Tsuda Y, Yamanaka K, Toyoshima R, Ueda M, Masuda T, Misumi Y, Ogura T, Ando Y: Development of transgenic *Caenorhabditis elegans* expressing human transthyretin as a model for drug screening. *Sci Rep* 8(1): 17884, 2018.
- 5) Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y: Origin of sporadic late-onset hereditary ATTR Val30Met amyloidosis in Japan. *Amyloid* 25(3): 143-147, 2018.
- 6) Masuda T, Ueda M, Kitajima M, Morita K, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Yamashita Y, Ando Y: Teaching NeuroImages: Morphology of lumbosacral dorsal root ganglia and plexus in hereditary transthyretin amyloidosis. *Neurology* 91(19): e1834-e1835, 2018.
- 7) Hirakawa K, Takashio S, Marume K, Yamamoto M, Hanatani S, Yamamoto E, Sakamoto K, Izumiya Y, Kaikita K, Oda S, Utsunomiya D, Shiraishi S, Ueda M, Yamashita T, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K: Non-Val30Met mutation, septal hypertrophy, and cardiac denervation in patients with mutant transthyretin amyloidosis. *ESC Heart Fail* 6(1): 122-130, 2018.
- 8) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y: First Nationwide Survey of 199 Patients with Amyloid A Amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57(23): 3351-3355, 2018.
- 9) Ikeda T, Masuda T, Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Shinriki S, Ando Y: Unwanted road to anaemia in transthyretin familial amyloid polyneuropathy may continue irrespective of tafamidis treatment. *Ann Clin Biochem* 55(5): 571-575, 2018.
- 10) Nishi S, Hoshino J, Yamamoto S, Goto S, Fujii H, Ubara Y, Motomiya Y, Morita H, Takaichi K, Yamagata K, Shigematsu T, Ueda M, Ando Y: Multicentre cross-sectional study for bone-articular lesions associated with dialysis related amyloidosis in Japan. *Nephrology (Carlton)* 23(7): 640-645, 2018.
- 11) 山下太郎, 植田光晴, 安東由喜雄: 手根管症候群に潜む疾患の鑑別と治療 TTR-FAP: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー. *末梢神経* 29(2): 224-231, 2018.
- 12) 植田光晴, 安東由喜雄: 遺伝性ニューロパチー— 家族性アミロイドポリニューロパチー. *Clinical Neuroscience* 36(9): 1075-1079, 2018.
- 13) 植田光晴, 三隅洋平, 増田曜章, 津田幸元, 井

上泰輝, 野村隼也, 山下太郎, 安東由喜雄: トランスサイレチンフラグメントのアミロイド形成および細胞毒性の解析. *末梢神経* 29(1): 42-49, 2018.

大橋健一

- 1) Iwadate D, Hasegawa E, Hoshino J, Hayami N, Sumida K, Yamanouchi M, Sekine A, Kawada M, Hiramatsu R, Suwabe T, Sawa N, Yuasa M, Wake A, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y.: The Long-term Outcomes after VAD plus SCT Therapy in a Patient with AL Amyloidosis and Severe Factor X Deficiency. *Intern Med.* ;57(5):701-706, 2018.
- 2) Haku S, Wakui H, Azushima K, Haruhara K, Kinguchi S, Ohki K, Uneda K, Kobayashi R, Matsuda M, Yamaji T, Yamada T, Minegishi S, Ishigami T, Yamashita A, Ohashi K, Tamura K. Early Enhanced Leucine-Rich α -2-Glycoprotein-1 Expression in Glomerular Endothelial Cells of Type 2 Diabetic Nephropathy Model Mice. *Biomed Res Int* 2018:2817045.
- 3) Yabuuchi J, Hoshino J, Mizuno H, Ozawa Y, Sekine A, Kawada M, Sumida K, Hiramatsu R, Hayami N, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Sawa N, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y.: Immunoglobulin G subclass 3 in ISN/RPL lupus nephritis classification. *Clin Nephrol.* 91(1):32-39. 2019
- 4) Takada D, Hoshino J, Fujii T, Usui J, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Suzuki S, Yamagata K, Ubara Y.: Association between renal outcome and the number of steroid pulse therapies after tonsillectomy in patients with IgA nephropathy. *Clin Exp Nephrol.* 23(3):335-341, 2019.
- 5) Hasegawa J, Hoshino J, Sekine A, Hayami N, Suwabe T, Sumida K, Mise K, Ueno T, Yamanouchi M, Hazue R, Sawa N, Ohashi K, Fujii T, Takaichi K, Ubara Y.: Clinical and histological features of antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis related to antithyroid drugs. *Clin Nephrol.* 89(6):438-444, 2018
- 6) Hoshino J, Furuichi K, Yamanouchi M, Mise K, Sekine A, Kawada M, Sumida K, Hiramatsu R,

Hasegawa E, Hayami N, Suwabe T, Sawa N, Hara S, Fujii T, Ohashi K, Kitagawa K, Toyama T, Shimizu M, Takaichi K, Ubara Y, Wada T. A new pathological scoring system by the Japanese classification to predict renal outcome in diabetic nephropathy. *PLoS One.* 13(2): e0190923, 2018

- 7) Yamanouchi M, Hoshino J, Ubara Y, Takaichi K, Kinowaki K, Fujii T, Ohashi K, Mise K, Toyama T, Hara A, Kitagawa K, Shimizu M, Furuichi K, Wada T. Value of adding the renal pathological score to the kidney failure risk equation in advanced diabetic nephropathy. *PLoS One.* 13(1): e0190930, 2018
- 8) 大橋健一: 免疫染色によるアミロイドーシス病型診断、現状と将来の取り組み. *病理と臨床* 36(7): 710-712, 2018.

小野賢二郎

- 1) Shiromaru-Sugimoto A, Murakami H, Futamura A, Honma M, Kuroda T, Kawamura M, Ono K: The subjective perception of past, present, and future time in patients with Alzheimer's disease: a qualitative study. *Neuropsychiatr Dis Treat* 14: 3185-3192, 2018.
- 2) Ono K: Alzheimer's disease as oligomeropathy. *Neurochem Int* 119: 57-70, 2018.
- 3) Watanabe-Nakayama T, Ono K: High-speed atomic force microscopy of individual amyloidogenic protein assemblies. *Methods Mol Biol* 1814: 201-212, 2018.
- 4) Shozawa H, Oguchi T, Tsuji M, Yano S, Kiuchi Y, Ono K: Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits β -amyloid oligomerization in vitro. *Neurosci Lett* 677: 19-25, 2018.
- 5) 二村 明德, 小野 賢二郎: 認知症関連疾患. *月刊レジデント* 11(10): 82-89, 2018.
- 6) 小野 賢二郎, 山田 正仁: アミロイド仮説は否定されるのか. *神経治療学* 35(3): 182-186, 2018.

関島良樹

- 1) Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koike H, Yamada M, Ando Y: First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan. *Amyloid* 25(1): 8-10, 2018.
- 2) Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ishii T, Ando Y: Diagnosis and management of transthyretin

- familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm. *Orphanet J Rare Dis* 13(6), 2018.
- 3) Sekijima Y: Hereditary Transthyretin Amyloidosis. 2001 Nov 5 [Updated 2018 Dec 20]. In: Adam MP, Ardinger HH, Pagon RA, et al., editors. *GeneReviews*® [Internet]. Seattle (WA): University of Washington, Seattle; 1993-2018. Available from: <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK1194/>
- 4) Yazaki M, Yoshinaga T, Sekijima Y, Kametani F, Okumura N. Hereditary Fibrinogen A α -Chain Amyloidosis in Asia: Clinical and Molecular Characteristics. *Int J Mol Sci* 19(1) pii: E320, 2018.
- 5) Kishida D, Yazaki M, Nakamura A, Nomura F, Kondo T, Uehara T, Ikusaka M, Ohya A, Watanabe N, Endo R, Kawai S, Shimojima Y, Sekijima Y: One novel and two uncommon MEFV mutations in Japanese patients with familial Mediterranean fever: a clinicogenetic study. *Rheumatol Int* 38(1): 105-110, 2018
- 6) Ezawa N, Katoh N, Oguchi K, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y. Visualization of multiple organ amyloid involvement in systemic amyloidosis using 11C-PiB PET imaging. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*. 45 (3): 452-461, 2018.
- 7) Shimazaki C, Hata H, Iida S, Ueda M, Katoh N, Sekijima Y, Ikeda S, Yazaki M, Fukushima W, Ando Y: Nationwide Survey of 741 Patients with Systemic Amyloid Light-chain Amyloidosis in Japan. *Intern Med* 57(2): 181-187, 2018.
- 8) Adams D, Gonzalez-Duarte A, O'Riordan WD, Yang CC, Ueda M, Kristen AV, Tournev I, Schmidt HH, Coelho T, Berk JL, Lin KP, Vita G, Attarian S, Planté-Bordeneuve V, Mezei MM, Campistol JM, Buades J, Brannagan TH 3rd, Kim BJ, Oh J, Parman Y, Sekijima Y, Hawkins PN, Solomon SD, Polydefkis M, Dyck PJ, Gandhi PJ, Goyal S, Chen J, Strahs AL, Nochur SV, Sweetser MT, Garg PP, Vaishnav AK, Gollob JA, Suhr OB: Patisiran, an RNAi therapeutic, for hereditary transthyretin amyloidosis. *N Engl J Med* 379(1): 11-21, 2018
- 9) Ishida M, Yamada Y, Mizutani T, Hara A, Sekijima Y, Ako J, Inomata T: Cardiac Amyloidosis Mimicking Dilated Cardiomyopathy But Showing Relative Apical Sparing of Longitudinal Strain. *Circulation J* 82(12): 3102-3103, 2018.
- 10) Benson MD, Buxbaum JN, Eisenberg DS, Merlini G, Saraiva MJM, Sekijima Y, Sipe JD, Westermark P. Amyloid nomenclature 2018: recommendations by the International Society of Amyloidosis (ISA) nomenclature committee. *Amyloid* 25(4): 215-219. 2018.
- 11) Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C: Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 6(1): 232-236, 2019.
- 12) Kozuka A, Koyama J, Sekijima Y, Ikeda U: Quantitative analysis of endocardial and epicardial left ventricular myocardial deformation in patients with cardiac amyloidosis. *Shinshu Med J* 67(1): 49-60, 2019.
- 13) Miyake Z, Nakamagoe K, Ezawa N, Yoshinaga T, Hashimoto R, Sato T, Sekijima Y, Tamaoka A: Late-onset transthyretin (TTR)-familial amyloid polyneuropathy (FAP) with a long disease duration from non-endemic areas in Japan. *Intern Med* 58(5), 713-718, 2019
- 14) Buxbaum JN, Brannagan T 3rd, Buades-Reinés J, Cisneros E, Conceicao I, Kyriakides T, Merlini G, Obici L, Plante-Bordeneuve V, Rousseau A, Sekijima Y, Imai A, Waddington Cruz M, Yamada M: Transthyretin deposition in the eye in the era of effective therapy for hereditary ATTRV30M amyloidosis. *Amyloid* [Epub ahead of print]
- 15) Ohashi N, Kodaira M, Morita H, Sekijima Y: Electrophysiological demyelinating features in hereditary ATTR amyloidosis. *Amyloid* [Epub ahead of print]
- 16) Koyama J, Minamisawa M, Sekijima Y, Kuwahara K, Katsuyama T, Maruyama K: Role of echocardiography in assessing cardiac amyloidoses: a systematic review. *Echocardiogr* [Epub ahead of print]

- 17) 関島良樹：遺伝性 ATTR (ATTRm) アミロイドーシス, 水澤英洋, 山口修平, 園生雅弘 編集：神経疾患最新の治療 2018-2200, pp267-269, 南江堂, 東京, 2018.
- 18) 関島良樹：FAP のケースアプローチ . 神田隆 編集：神経内科 Clinical Question & Pearls 末梢神経障害, pp200-203, 中外医学社, 東京, 2018
- 19) 関島良樹：遺伝性 ATTR アミロイドーシス . Clinical Neuroscience 36(2): 198-199, 2018.
- 20) 関島良樹：ATTR 型 CAA の臨床的意義 . 神経内科 88(3) : 300-304, 2018
- 21) 関島良樹：siRNA を用いた遺伝子治療の現状 . 最新医学 73(6) : 775-780, 2018.
- 22) 関島良樹：トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー . 神経治療学 35(1) : 47-50, 2018.
- 23) 関島良樹：家族性アミロイドポリニューロパチー (遺伝性 ATTR アミロイドーシス). 遺伝子医学 8(1) : 123-127, 2018
- 24) 関島良樹：遺伝性 ATTR アミロイドーシスに対する核酸医薬品開発 . 神経内科 89(5) : 536-540, 2018.
- 25) 加藤修明, 関島良樹：AL アミロイドーシス . Clinical Neuroscience 36(9) : 1061-1064 , 2018.
- S, Kitakata H, Hiraide T, Fukuda K, Sano M. IL (Interleukin)-10-STAT3-Galectin-3 Axis Is Essential for Osteopontin-Producing Reparative Macrophage Polarization After Myocardial Infarction. Circulation. 2018;138(18):2021-2035.
- 4) Ohashi M, Kohno T, Kohsaka S, Fukuoka R, Hayashida K, Yuasa S, Sano M, Takatsuki S, Fukuda K. Excessive Daytime Sleepiness Is Associated With Depression Scores, But Not With Sleep-Disordered Breathing in Patients With Cardiovascular Diseases. Circ J. 2018;82(8):2175-2183.
- 5) Isoda K, Akita K, Kitamura K, Sato-Okabayashi Y, Kadoguchi T, Isobe S, Ohtomo F, Sano M, Shimada K, Iwakura Y, Daida H. Inhibition of interleukin-1 suppresses angiotensin II-induced aortic inflammation and aneurysm formation. Int J Cardiol. 2018; 270: 221-227.
- 6) Umbarawan Y, Syamsunarno MRAA, Koitabashi N, Yamaguchi A, Hanaoka H, Hishiki T, Nagahata-Naito Y, Obinata H, Sano M, Sunaga H, Matsui H, Tsushima Y, Suematsu M, Kurabayashi M, Iso T. Glucose is preferentially utilized for biomass synthesis in pressure-overloaded hearts: evidence from fatty acid-binding protein-4 and -5 knockout mice. Cardiovasc Res. 2018;114(8):1132-1144.
- 7) Sano M, Suzuki M, Homma K, Hayashida K, Tamura T, Matsuoka T, Katsumata Y, Onuki S, Sasaki J. Promising novel therapy with hydrogen gas for emergency and critical care medicine. Acute Med Surg. 2018;5(2):113-118.

佐野元昭

- 1) Yamamoto T, Endo J, Kataoka M, Matsuhashi T, Katsumata Y, Shirakawa K, Yoshida N, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Yamashita K, Nakanishi H, Shimanaka Y, Kono N, Shinmura K, Arai H, Fukuda K, Sano M. Decrease in membrane phospholipids unsaturation correlates with myocardial diastolic dysfunction. PLoS One. 2018;13(12): e0208396.
- 2) Umbarawan Y, Syamsunarno MRAA, Koitabashi N, Obinata H, Yamaguchi A, Hanaoka H, Hishiki T, Hayakawa N, Sano M, Sunaga H, Matsui H, Tsushima Y, Suematsu M, Kurabayashi M, Iso T. Myocardial fatty acid uptake through CD36 is indispensable for sufficient bioenergetic metabolism to prevent progression of pressure overload-induced heart failure. Sci Rep. 2018;8(1):12035.
- 3) Shirakawa K, Endo J, Kataoka M, Katsumata Y, Yoshida N, Yamamoto T, Isobe S, Moriyama H, Goto

田原宣広

- 1) Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Honda A, Igata S, Fukumoto Y: Clinical hallmarks making diagnosis of infective endocarditis. *J Nucl Cardiol* doi: 10.1007/s12350-019-01686-z, 2019.
- 2) Ito S, Tahara N, Hirakata S, Kaieda S, Tahara A, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Kuromatsu R, Nakashima O, Fukumoto Y: Signal intensity of superb micro-vascular imaging associates with the activity of vascular inflammation in

- Takayasu arteritis. *J Nucl Cardiol* doi: 10.1007/s12350-019-01665-4, 2019.
- 3) Tahara N, Kojima R, Yoshida R, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Maeda S, Honda A, Igata S, Nakamura T, Sun J, Matsui T, Fukumoto Y, Matsui T, Yamagishi SI: Serum levels of protein-bound methylglyoxal-derived hydroimidazolone-1 are independently correlated with asymmetric dimethylarginine. *Rejuvenation Res* doi: 10.1089/rej.2018.2152, 2019.
- 4) Igata S, Tahara N, Sugiyama Y, Bekki M, Kumanomido J, Tahara A, Honda A, Maeda S, Nashiki K, Nakamura T, Sun J, Abe T, Fukumoto Y: Utility of the amplitude of RV1+SV5/6 in assessment of pulmonary hypertension. *PLoS One* 13(11): e0206856, 2018.
- 5) Saku K, Tahara N, Takaseya T, Shintani Y, Takagi K, Shojima T, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H: Multimodal imaging of cardiac-calcified amorphous tumor. *J Nucl Cardiol* doi: 10.1007/s12350-018-01510-0, 2018.
- 6) Ishibashi K, Eishi Y, Tahara N, Asakura M, Sakamoto N, Nakamura K, Takaya Y, Nakamura T, Yazaki Y, Yamaguchi T, Asakura K, Anzai T, Noguchi T, Yasuda S, Terasaki F, Hamasaki T, Kusano K: Japanese Antibacterial Drug Management for Cardiac Sarcoidosis (J-ACNES): A multicenter, open-label, randomized, controlled study. *J Arrhythm* 34(5): 520-526, 2018.
- 7) Tahara N, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Fukumoto Y: Importance of extracardiac FDG uptake to diagnose cardiac sarcoidosis. *J Nucl Cardiol* doi: 10.1007/s12350-018-1425-2, 2018.
- 8) Imai S, Tahara N, Hiromatsu S, Fukumoto Y, Tanaka H: Endovascular repair for inflammatory abdominal aortic aneurysm. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 19(10): 1191-1192, 2018.
- 9) Maeda S, Tahara N, Takase F, Bekki M, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y: Diagnostic performance of FDG-PET/CTA in native mitral valve endocarditis. *J Nucl Cardiol* 26(2): 681-683, 2019.
- 10) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Igata S, Honda A, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kumashiro Y, Matsui T, Fukumoto Y, Yamagishi S-I: Switching dipeptidyl peptidase-4 inhibitors to tofogliflozin, a selective inhibitor of sodium-glucose cotransporter 2 improves arterial stiffness evaluated by cardio-ankle vascular index in patients with type 2 diabetes: a pilot study. *Curr Vasc Pharmacol* doi: 10.2174/1570161116666180515154555, 2018.
- 11) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Tanaka H, Suda K, Fukumoto Y: Anti-inflammatory effect of statin in coronary aneurysms late after Kawasaki disease. *J Nucl Cardiol* 26(2): 671-673, 2019.
- 12) Kaida H, Azuma K, Toh U, Kawahara A, Sadashima E, Hattori S, Akiba J, Tahara N, Rominger A, Ishii K, Murakami T, Ishibashi M: Correlations between dual-phase 18F-FDG uptake and clinicopathologic and biological markers of breast cancer. *Hell J Nucl Med* 21(1): 35-42, 2018.
- 13) Saku K, Shintani Y, Tahara N, Kikusaki S, Imai S, Shojima T, Takagi K, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H: Inflammatory reaction of a pericardial foreign body after cardiac surgery. *J Nucl Cardiol* 26(1): 328-329, 2019.
- 14) Saku K, Tahara N, Takagi K, Imai S, Takaseya T, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H: Inflammatory activity of degenerated Freestyle valve 17 years after ROSS procedure. *J Nucl Cardiol* 25(5): 1863-1864, 2018.
- 15) Yamaki T, de Haas HJ, Tahara N, Petrov A, Mohar D, Haider N, Zhou J, Tahara A, Takeishi Y, Boersma HH, Scarabelli T, Kini A, Strauss HW, Narula J: Cardioprotection by minocycline in a rabbit model of ischemia/reperfusion injury: Detection of cell death by in vivo ¹¹¹In-GSAO SPECT. *J Nucl Cardiol* 25(1): 94-100, 2018.
- 16) Nakamura T, Ogo T, Tahara N, Fukui S, Tsuji A, Ueda J, Fukumoto Y, Nakanishi N, Ogawa H, Yasuda S: Thalidomide for Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia with Pulmonary Arterial Hypertension. *Circ J* 82(4): 1205-1207, 2018.
- 17) Iwanaga J, Watanabe K, Saga T, Tahara N, Tabira

Y, Sakuragi A, Kaji K, Takahashi K, Yamaki KI: Anatomical and Radiological Analyses of L-shaped Kidney with Vascular Anomalies. *Kurume Med J* 64(1.2): 21-24, 2018.

18) Nakamura T, Tahara N, Tahara A, Honda A, Igata S, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Kumagai E, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Kato S, Tanaka H, Fukumoto Y: Right ventricular workload assessed by FDG-PET in a patient with residual VSD and infundibular pulmonary stenosis after repair of tetralogy of Fallot. *J Nucl Cardiol* 25(3): 1053-1055, 2018.

19) Nakamura T, Tahara N, Tahara A, Honda A, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Kumagai E, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Igata S, Fukumoto Y: Myocardial metabolic improvement prior to electrocardiographic or volumetric changes of the right ventricle in pulmonary arterial hypertension. *J Nucl Cardiol* 25(1): 358-359, 2018.

2. 学会発表

内木宏延

1) 内木宏延: ヒトアミロイドーシス発症の分子機構. 第 107 回日本病理学会総会, 札幌, 6,21-23, 2018.

2) 内木宏延: 病型診断の重要性とアミロイドーシス調査研究班の取り組み (アミロイドーシスの診断法の発展を追う). 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.

3) 内木宏延: アミロイドーシス発症の分子機構と病型診断の重要性 (アミロイドーシス発症の原理に基づく予測と予防の新展開). 第 91 回日本生化学会大会, 京都, 9,24-26, 2018.

安東由喜雄

1) 安東由喜雄: 末梢神経疾患の診断と治療 ~ FAP の最新の話題を含めて ~. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018

2) 安東由喜雄: アミロイドーシスのすべて - 2017 年診療ガイドライン. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018.

3) 安東由喜雄: 見逃してはいけない日常診療に潜むアミロイドーシス ~Red-flag による TTR-FAP 鑑別診断~. 第 36 回日本神経治療学会学術集会,

東京, 11,23-25, 2018.

4) 安東由喜雄: アミロイドーシスが引き起こす様々なニューロパチーの最新の知見. 第 224 回日本神経学会九州地方会, 熊本, 12,22, 2018.

5) 安東由喜雄: 循環器症状を伴う末梢神経障害疾患 TTR-FAP を見逃さない. 第 83 回日本循環器学会学術集会 ファイアサイドセミナー, 横浜, 3.29, 2019

山田正仁

1) Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M: Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. The 6th International CAA Conference, Lille, September 6-8, 2018.

2) Sakai K, Asakawa M, Takahashi R, Ishida C, Nakamura R, Hamaguchi T, Ono K, Iwasa K, Yamada M: Coexistence of transthyretin- and A β -type cerebral amyloid angiopathy in a patient with hereditary transthyretin V30M amyloidosis. 19th International Congress of Neuropathology/4th Asian Congress of Neuropathology/ 59th Annual Meeting of the Japanese Society of Neuropathology/ 36th Annual Meeting of the Japan Society of Brain Tumor Pathology (ICN2018), Tokyo, September 23-27, 2018.

3) Hamaguchi T, Komatsu J, Sakai K, Aoki S, Ikeuchi T, Yamada M: Clinicopathological study of cerebral amyloid angiopathy-related cerebrovascular diseases in young adults about 3 decades after neurosurgeries in the early childhood. Asian Pacific Prion Symposium 2018 (APPS2018), Tokyo, October 4-5, 2018.

4) 坂井健二, 植田光晴, 玉岡 晃, 東海林幹夫, 安東由喜雄, 山田正仁: Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5.23-26, 2018.

5) 坂井健二, 山田正仁: 脳アミロイドアンギオパチーと認知機能障害. 第 9 回日本脳血管・認知症学会総会 (VAS-COG Japan 2018), 別府, 8.4-5, 2018.

6) 濱口 毅, 小松潤史, 坂井健二, 山田正仁: 若年発症の脳アミロイドアンギオパチーの臨床病理学的検討. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8.25, 2018.

7) 植田光晴, 関島良樹, 三隅洋平, 増田曜章,

矢崎正英, 小池春樹, 山田正仁, 山下太郎,
安東由喜雄: 全国疫学調査を基にした家族性アミ
ロイドポリニューロパチーの実態解明. 第 29 回日
本末梢神経学会学術集会, 下関, 9.7-8, 2018.

8) Sakai K, Ueda M, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y,
Yamada M: Nationwide survey on cerebral amyloid
angiopathy in Japan. 第 37 回日本認知症学会学術集
会, 札幌, 10.12-14, 2018.

9) 濱口 毅, 小松潤史, 坂井健二, 山田正仁: 幼少
期に脳外科手術を受け若年で発症した脳アミロ
イドアンギオパチーの 2 例. 第 23 回日本神経感染
症学会総会・学術集会, 東京, 10.19-20, 2018.

玉岡 晃

1) Kenji Sakai, Mitsuharu Ueda, Akira Tamaoka,
Mikio Shoji, Yukio Ando, Masahito Yamada:
Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in
Japan, 59th Annual Meeting of the Japanese Society
of Neurology(Sapporo), May 24, 2018.

2) Yasushi Tomidokoro, Kazuhiro Ishii, Kazuhiro Irie,
Akira Tamaoka: Toxic Abeta conformer and tau in
CSF obtained from the cases of AD dementia, a
preliminary study, 59th Annual Meeting of the
Japanese Society of Neurology(Sapporo), May 25,
2018.

3) Fumiko Yamamoto, Kaori Taniguchi, Naomi
Mamada, Akira Tamaoka, Fuyuki Kametani,
Madepalli K. Lakshmana, Wataru Araki: Enhancement
of the autophagy-lysosomal pathway modulates the
process of beta-amyloid generation, 59th Annual
Meeting of the Japanese Society of
Neurology(Sapporo), May 26, 2018.

4) 玉岡晃: アルツハイマー病に対する治療の現状
と今後の展望, 第 59 回日本神経学会学術大会(札
幌), 5,24, 2018.

5) 細井崇弘, 石井一弘, 遠坂直希, 山口哲人, 岸
田 大, 関島良樹, 玉岡晃: 再発性髄膜炎をてい
した家族性地中海熱の 4 2 歳男性例. 第 2 2 6 回
日本神経学会関東・甲信越地方会(東京), 9,1,
2018.

6) 玉岡 晃: 認知症: 予防の現況と展望, 第 2 7
回日本認知症学会学術集会(札幌), 10.12, 2018.

7) 富所 康志, 石井 一弘, 入江 一浩, 玉岡 晃: 脳

脊髄液中の A β 毒性コンホマー量とタウの関連.
第 37 回日本認知症学会学術集会, 札幌, 10,12-14,
2018.

8) 玉岡 晃: 認知症の予防の現状と展望. 第 37 回
日本認知症学会学術集会, 札幌, 10,12, 2018.

9) 玉岡 晃: 改訂された新しい『認知症疾患診療
ガイドライン 2017』, 第 9 回関東脳神経外科認知
症研究会(東京), 11,10, 2018.

10) 玉岡 晃: 認知症: 診断と治療の最前戦~「診
療ガイドライン 2017」改訂のポイントを中心に.
平成 30 年度日本神経学会関東・甲信越地区生涯
教育して講演会(東京), 12,2, 2018.

東海林幹夫

1) 東海林幹夫, Alzheimer 病臨床研究の現状. 日
本安全性薬理研究会. 第 9 回学術年会, 一般公開
シンポジウム: アルツハイマー病のバイオマーカ
ーと治療標的の同定. 東京大学, 東京, 2,8, 2018.

2) 東海林幹夫, 共催シンポジウム 3 アミロイドは
どうしてたまるか?—アミロイド代謝とその治療
的介入 Alzheimer 病免疫療法の可能性 第 8 会認知
症予防学会, 日本教育会館 東京, 23, 9, 2018.

3) 内木 宏延: ヒトアミロイドーシス発症の分子
機構. 第 107 回日本病理学会総会, 札幌, 6,21-23,
2018.

4) Takeshi Kawarabayashi, Takumi Nakamura, Mie
Hirohata, Yusuke Seino, Mikio Shoji, Accumulation of
A β oligomers induces phosphorylated tau in synaptic
lipid rafts. Alzheimer's Association International
Conference (AAIC) 2018 Chicago, July 23, 2018

5) Takumi Nakamura, Takeshi Kawarabayashi,
Yusuke Seino, Mie Hirohata, Mikio Shoji, APOE ϵ 4
suppresses age-dependent increase in plasma A β 42
levels. Neuroscience 2018, the Society for
Neuroscience, 48th Annual Meeting, San Diego,
November 6, 2018

6) Yusuke Seino, Takumi Nakamura, Mie Hirohata,
Takeshi Kawarabayashi, Mikio Shoji, Cerebrospinal
fluid and blood biomarkers in neurological diseases
第 37 回日本認知症学会学術集会 札幌 12,10,
2018.

7) 瓦林毅, 成田早希子, 佐藤薫, 中村琢洋, 廣畑
美枝, 清野祐輔, 中畑直子, 東海林幹夫. 組み換

えダイズ蛋白によるアルツハイマー病経口免疫療法の開発．第 37 回日本認知症学会学術集会．札幌, 13, 10, 2018.

高市憲明

1) 渡邊 駿, 早見 典子, 小黒 昌彦, 大島 洋一, 井熊 大輔, 関根 章成, 川田 真宏, 平松 里佳, 住田 圭一, 長谷川 詠子, 山内 真之, 諏訪部 達也, 星野 純一, 澤 直樹, 石井 保夫, 高市 憲明, 大橋 健一, 藤井 丈士, 矢崎 正英, 乳原 善文 : 2 度の腎生検で診断された AH アミロイドーシスの 10 年の経過．第 63 回日本透析医学会学術集会．神戸, 6/29-3, 2018.

山田俊幸

1) Yamada T, Okuda Y: Features and changes in AA amyloidosis in Japan. XVIth International Symposium on Amyloidosis, 熊本, 3,28, 2018.
 2) Tanaka M, Kawakami T, Yamada T, Mukai T: Effect of carboxyl-terminal truncation on amyloid fibril formation of human serum amyloid. XVIth International Symposium on Amyloidosis, 熊本, 3,29, 2018.
 3) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y: Nationwide survey of 199 patients with reactive AA amyloidosis in Japan. XVIth International Symposium on Amyloidosis, 熊本, 3,26, 2018.
 4) Kawaguchi K, Yamada T: Carbamylation of human serum amyloid A. XVIth International Symposium on Amyloidosis, 熊本, 3,26, 2018.
 5) 奥田恭章, 山田俊幸: AA アミロイドーシスに関する初めての全国疫学調査．結果と特徴．第 62 回日本リウマチ学会学術集会, 東京, 4, 27, 2018.
 6) 川口公平, 佐藤純司, 山田俊幸: ヒト末梢血単核球との反応により生じたヒト rSAA 断片の解析．第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.

重松 隆

1) Toru Mima, Yuri Nakashima, Masaki Ohya, Mitsuru Yashiro, Kazuki Kawakami, Shigeo Negi, Takashi Shigematsu: FGF23-Klotho axis involving B cell immune response and possibly causing for ESRD

patients as immunocompromised hosts. ISN Frontiers Meetings 2018. 2.22-25, Tokyo, Japan.

2) Masaki Ohya, Kazuki Kawakami, Tomohiro Sonou, Mitsuru Yashiro, Toru Mima, Shigeo Negi, Takashi Shigematsu. Wakayama Medical University, Wakayama, Japan. : 1,25-Dihydroxyvitamin D Stimulation Increases FGF23 Expression in Calcified Vessels Under High Phosphate Condition. ASN Kidney Week 2018.10.23-28, San Diego, USA
 3) Masaki Ohya, Tomohiro Sonou, Takashi Shigematsu, Kouji Okuda, Yuko Iwashita, Mitsuru Yashiro, Tomohiro Shoshihara, Kazunori Kawakami, Yuri Nakashima, Toru Mima, Shigeo Negi: Magnesium prevents phosphate-induced vascular medial calcification via TRPM7 and Pit-1 in an aortic tissue culture ex-vivo model. ISN Frontiers Meetings 2018. 2.22-25, Tokyo, Japan.

4) 重松隆・根木茂雄・大矢昌樹: 本邦における ESRD の現状と課題.第 48 回日本腎臓学会西部学術大会,徳島,9.28-29,2018
 5) 重松隆・大矢昌樹: CKD 患者における腎性貧血と CKD-MBD. 第 8 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会,仙台,3.17-18,2018.
 6) 大矢昌樹・河上和紀・重松隆: FGF23 とビタミン D ~ 石灰化血管におけるビタミン D 刺激による FGF23 産生 ~ .第 63 回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸, 6.29-7.1, 2018

奥田恭章

1) Y Okuda, T Yamada, M Ueda, Y Ando. Nationwide survey of 199 reactive amyloid A amyloidosis in Japan. The XVIth International Symposium on Amyloidosis. 2018.3.26-29 Kumamoto, Japan.
 2) 奥田恭章, 山田俊幸. AA アミロイドーシスに関する初めての全国疫学調査-結果と特徴- 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2018.4.26-28 東京
 3) 奥田恭章: シンポジウム 2: AA アミロイドーシスにおける新既治療法の発展と現況. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会・学術集会 2018.8.25 松本市
 4) T Yamada, Y Okuda. Futures and changes in AA amyloidosis in Japan. The XVIth International

Symposium on Amyloidosis. 2018.3.26-29 Kumamoto, Japan

5) S Nishi, Y Okuda, H Fujii, S Goto, K Kono, M Yoshikawa, S Watanabe, M Ueda, Y Ando.

Intraventricular septum thickness (IVST) independently increases according to the decline of eGFR in AA amyloidosis. The XVIth International Symposium on Amyloidosis. 2018.3.26-29 Kumamoto, Japan

畑 裕之

1) 再発難治多発性骨髄腫 12 例におけるエロツズマブ、レブラミド、デキサメサゾン療法の治療成績: 奥野 豊, 河野 和, 上野 志貴子, 畑 裕之, 松岡 雅雄。第 80 回日本血液学会学術集会 2018 年 10 月 大阪

2) 骨髄形質細胞と骨髄腫細胞はケモカインレセプター CCR10 を高発現する: 河野 和, 松下 豊, 笹野 孝行, 西村 直, 畑 裕之, 松岡 雅雄。第 80 回日本血液学会学術集会 2018 年 10 月 大阪

3) t(11;14)を有する形質細胞性疾患に合併した 2 例の後天性 Fanconi 症候群の報告: 古田 梨愛, 河野 和, 立津 央, 井上 秀樹, 菊川 佳敬, 奥野 豊, 畑 裕之, 松岡 雅雄。第 80 回日本血液学会学術集会 2018 年 10 月 大阪。

小池春樹

1) Koike H, Pathology and pathogenetic aspect: classic model of AIDP vs. paranodal lesion of CIDP, 16th Asian Oceanian Congress of Neurology, Seoul November 8-11, 2018.

2) Koike H, Nutritional neuropathy, 16th Asian Oceanian Congress of Neurology, Seoul November 8-11, 2018.

3) Koike H, Pathology of familial amyloid polyneuropathy, 19th International congress of Neuropathology, Japan, Tokyo, September 22-25, 2018.

4) Koike H, Diagnosis and treatment of peripheral neuropathies, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

5) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima

M, Katsuno M, Sobue G, Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: an observation on longitudinal sections, 9th International congress of Neuropathology, Japan, Tokyo, September 23-25, 2018.

6) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Misumi Y, Ando Y, Ikeda SI, Katsuno M, Sobue G, Vasculopathy in hereditary transthyretin amyloidosis: an electron microscopic study, 19th International congress of Neuropathology, Japan, Tokyo, September 23-27, 2018.

7) Nishi R, Koike H, Ikeda S, Ken Ohyama, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G, Clinicopathological features of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis with and without anti-neutrophil cytoplasmic antibodies, 2018 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, USA, Baltimore, July 22-25, 2018.

8) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G, Evolution of amyloid fibrils in transthyretin familial amyloid polyneuropathy: an ultrastructural study, 2018 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, USA, Baltimore, July 22-25, 2018.

9) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G, Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy, 2018 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, USA, Baltimore, July 22-25, 2018.

10) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno.M, Sobue G, Evolution of amyloid fibrils in hereditary ATTR amyloidosis:an ultrastructural study, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

11) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Yasuda T, Mukai E, Date Y, Shiomi K, Nakazato M, Katsuno.M, Sobue G, Common clinicopathological features in late-onset hereditary ATTR amyloidosis (Ala97Gly, Val94Gly, and Val30Met), The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

12) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S,

Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno.M, Sobue G, Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary ATTR amyloidosis with non-Val30Met mutation, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

13) Nakamura T, Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno.M, Sobue G, Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary ATTR amyloidosis with Val30Met mutation, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

14) Yamashita Y, Sekijima Y, Koike H, Ueda M, Yoshinaga T, Kodaira M, Sobue G, Katsuno M, Singh T, Hashimoto Y, Kadam K, Hou A, Ando Y, Patisiran, an investigational RNAi therapeutic for patients with hereditary transthyretin-mediated (hATTR) amyloidosis: Phase 3 APOLLO study subanalysis of Japanese patients, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

15) Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koike H, Yamada M, Ando Y, First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan, The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Japan, Kumamoto March 26-29, 2018.

16) 小池春樹: 末梢神経疾患をめぐる病態と治療法の新たな展開. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.

17) 小池春樹: アルコール性・栄養欠乏性ミエロパチー. 第59回日本神経学会学術大会, 札幌, 5, 23-26, 2018.

18) 小池春樹: 痛みの神経病理. 第29回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 9, 7-8, 2018.

19) 小池春樹: 免疫介在性ニューロパチーにおける血液神経関門の破綻と病態. 第30回日本神経免疫学会学術集会, 郡山, 9, 20-21, 2018.

島崎千尋

1) Shimazaki C. Current diagnosis and treatment of AL amyloidosis in Japan. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 10.12-14, 2018.

2) Fuchida S, Taminishi Y, Matsui S, Hatsuse M, Murakami S, Shimazaki C. Retrospective analysis of

IgM AL amyloidosis in our hospital. 第80回日本血液学会学術集会, 大阪, 10.12-14, 2018.

3) Fuchida S, Taminishi Y, Matsui S, Hatsuse M, Murakami S, Shimazaki C. Retrospective analysis of 45 cases with cardiac AL amyloidosis in our hospital. The XVIth International Symposium on Amyloidosis. Kumamoto, 3.26-29, 2018.

4) 淵田真一, 民西葉子, 松井紗央梨, 初瀬真弓, 村頭智, 島崎千尋: 心 AL アミロイドーシス 45 例における突然死に関する後方視的検討. 第6回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.

飯田真介

1) Iida S, Matsumoto M, Kosugi H, Noguchi H, Suzuki A, Yamazaki H, Shibayama H: Subcutaneous delivery of daratumumab in Japanese patients with RRMM: a phase 1 study. 第80回日本血液学会学術総会, 大阪, 10, 12-14, 2018.

2) Iida S, Maruyama D, Ogawa G, Kusumoto S, Fukuhara S, Seo S, Miyazaki K, Yoshimitsu M, Kuroda J, Tsukamonoto N, Tsujimura H, Hangaishi A, Yamauchi T, Utsumi T, Mizuno H, Takamatsu Y, Nagata Y, Minauchi K, Ohtsuka E, Hanamura I, Tokunaga T, Yoshida S, Yamasaki S, Suehiro Y, Kamiyama Y, Miyamoto K, Watanabe Y, Tsukasaki K, Nagai H: Randomized phase II study to optimize MPB in untreated transplant-ineligible myeloma: JCOG1105. 第80回日本血液学会学術総会, 大阪, 10, 12-14, 2018.

3) Maruyama D, Iida S, Ogawa G, Kusumoto S, Fukuhara S, Seo S, Miyazaki K, Yoshimitsu M, Kuroda J, Tsukamonoto N, Tsujimura H, Hangaishi A, Yamauchi T, Utsumi T, Mizuno H, Takamatsu Y, Nagata Y, Minauchi K, Ohtsuka E, Hanamura I, Tokunaga T, Yoshida S, Yamasaki S, Suehiro Y, Kamiyama Y, Miyamoto K, Watanabe Y, Tsukasaki K, Nagai H: Randomized phase II study for optimizing melphalan, prednisolone and bortezomib (MPB) in transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma (NDMM): Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG1105). The 23rd Congress of the European Hematology Association (EHA23),

Stockholm, June, 14-17, 2018.

植田光晴

- 1) 植田光晴、安東由喜雄：アミロイドーシスの診断と治療 update - ガイドライン 2017 . 平成 29 年度日本神経学会九州地区生涯教育講演会、March 11, 2018, 福岡
- 2) 植田光晴、安東由喜雄：家族性アミロイドポリニューロパチーの早期診断と治療. シンポジウム「神経内科医が知っておくべき代謝性神経疾患 = 保険治療の最前線=」、第 59 回日本神経学会学術大会, May 23-26, 2018, 札幌
- 3) 植田光晴：アミロイドーシスの非侵襲的診断・病態評価法の発展 . シンポジウム「アミロイドーシスの診断法の発展を追求」、第 6 回日本アミロイドーシス研究会、Aug 25, 2018, 松本
- 4) 植田光晴、安東由喜雄：加齢により発症するトランスサイレチンアミロイドーシスの病態解析 . ワークショップ「組織恒常性のフレキシビリティ低下と加齢関連疾患」、第 41 回日本分子生物学会年会、Nov 28-30, 2018, 横浜

大橋健一

- 1) 渡邊 駿, 早見 典子, 小黒 昌彦, 大島 洋一, 井熊 大輔, 関根 章成, 川田 真宏, 平松 里佳, 住田 圭一, 長谷川 詠子, 山内 真之, 諏訪部 達也, 星野 純一, 澤 直樹, 石井 保夫, 高市 憲明, 大橋 健一, 藤井 丈士, 矢崎 正英, 乳原 善文. 2 度の腎生検で診断された AH アミロイドーシスの 10 年の経過
日本透析医学会雑誌(1340-3451)51 巻 Suppl.1
Page521(2018.05)

小野賢二郎

- 1) Ono K, Watanabe-Nakayama T, Itami M, Takahashi R, Teplow DB, Yamada M: High-speed atomic Force Microscopy Reveals Structural Dynamics of Amyloid β 1-42 Aggregates(2). Alzheimer's Association International Conference 2018(AAIC), Chicago(USA), July 22-26, 2018.
- 2) 小野賢二郎, 中山隆宏, 伊丹将大, 高橋良一, Teplow DB, 山田正仁: High-Speed Atomic Force Microscopy Reveals Structural Dynamics of Amyloid

β 1-42 Aggregates (2). 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018.

- 3) 黒田岳志, 森友紀子, 二村明德, 四郎丸あずさ, 矢野 怜, 金野竜太, 村上秀友, 小野賢二郎: アルツハイマー病における微小脳出血の検討. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018.
- 4) 二村明德, 四郎丸あずさ, 森 友紀子, 黒田岳志, 矢野 怜, 金野竜太, 村上秀友, 小野賢二郎: AD と DLB の鑑別における ECD-脳血流 SPECT CIS core の有用性について. 第 59 回日本神経学会学術大会, 札幌, 5,23-26, 2018.
- 5) 小野賢二郎: 原子間力顕微鏡および電子顕微鏡によるアミロイド構成蛋白質凝集の観察. 日本顕微鏡学会第 74 回学術講演会・第 11 回風戸賞受賞講演会 福岡, 5,29-31, 2018.
- 6) 小野賢二郎: シロスタゾールの抗アミロイド効果. 第 9 回日本脳血管・認知症学会総会, 大分, 8,4-5, 2018.
- 7) 小野賢二郎: 蛋白凝集から神経変性疾患の治療戦略を探る. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 長野, 8,25, 2018.
- 8) 黒田岳志, 森 友紀子, 二村明德, 四郎丸あずさ, 笠井秀世, 矢野 怜, 金野竜太, 村上秀友, 小野賢二郎: アルツハイマー病における脳微小出血と脳脊髄液循環障害の関連性についての検討. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.
- 9) 小野賢二郎: Treatment of Alzheimer's disease: Current situation and prospect. 第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学学会大会 合同年会, 神戸, 9,6-8, 2018.
- 10) 小野賢二郎: Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits β -amyloid oligomerization in vitro, 第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学学会大会 合同年会, 神戸, 9,6-8, 2018.
- 11) 小野賢二郎: アルツハイマー病の臨床病理病態. 第 8 回日本認知症予防学会学術集会・第 5 回日本認知症予防学会認知症予防専門医教育セミナー, 東京, 9,22-24, 2018.
- 12) 所澤修任, 小口達敬, 辻 まゆみ, 矢野 怜, 木内祐二, 小野賢二郎: In vitro においてシロスタゾールは アミロイドのオリゴマー化を抑制する. 第 37 回日本認知症学会学術集, 札幌, 10,12-14,

2018.

13) 二村明德, 四郎丸あずさ, 森 友紀子, 黒田岳志, 矢野 怜, 金野竜太, 村秀友, 小野 賢二郎: AD と DLB の鑑別における ECD 脳血流 SPECT CIS core の有用性について. 第 37 回日本認知症学会学術集会, 札幌, 10,12-14, 2018.

関島良樹

1) Sekijima Y: Tools to define the earliest diagnosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

2) Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ando Y: Japanese consensus of diagnosis and treatments for ATTRm amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

3) Sekijima Y, Yazaki M, Ueda M, Koide H, Yamada M, Ando Y: First nationwide survey on systemic wild-type ATTR amyloidosis in Japan. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.

4) Sekijima Y. Tools to define the earliest diagnosis. XVI International Symposium on Amyloidosis. Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

5) Katoh N, Abe R, Ezawa N, Miyazaki D, Sekijima Y. Amyloid myopathy: Diagnosis, clinical presentation, pathology, and amyloid imaging findings of this rare myopathy associated with systemic immunoglobulin light chain

(AL) amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

6) Sekijima Y, Mundayat R, Ishii T, Ando Y: The current status of the transthyretin amyloidosis outcomes survey (THAOS) in Japan. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan,3,26-28, 2018.

7) Yazaki M, Yoshinaga T, Sekijima Y. A Japanese patient with late-onset cardiomyopathy: the first Asian case of V1221 hereditary ATTR amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.

8) Yazaki M, Yoshinaga T, Kametani F, Sekijima Y. Biochemical pathomechanism of progression of ocular and CNS amyloidosis in liver-transplanted hereditary

ATTR amyloidosis patients. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

9) Ishii T, Sekijima Y, Ando Y. Patient profile with ATTR-FAP and evaluation of the safety and efficacy of tafamidis meglumine in Japan. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

10) Ueno A, Katoh N, Ezawa N, Ueno K, Sekijima Y. Therapeutic impact of lenalidomide-dexamethasone for patients with relapsed or refractory systemic light chain (AL) amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

11) Shibata Y, Yabe I, Matsushima M, Matsuda K, Nagai A, Kano T, Yamada T, Sekijima Y, Sasaki H. Hereditary ATTR amyloidosis with a pseudo-homozygous Ala120Ser(p.Ala140Ser)transthyretin mutation due to a primer site polymorphism. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan,3, 26-28, 2018.

12) Ezawa N, Katoh N, Oguchi K, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y. Evaluation of multiple organ amyloid involvement in systemic AL and ATTR amyloidosis using whole body ¹¹C-PiB-PET imaging. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan,3, 26-28, 2018.

13) Mizuno H, Hoshino J, Yazaki M, Fujii T, Sekijima Y, Kametani F, Higuchi K, Ubara Y, Takaichi K. New Variant of beta2 microglobulin V27M in a patient with dialysis-related amyloidosis. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.

14) Jiang X, Buxbaum JN, Chapman J, Coelho T, Sekijima Y, Labaudiniere R, Kelly JW. A specific and versatile immunoassay suitable for the diagnosis of transthyretin amyloidosis(ATTR) using a wide range of biological samples. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.

15) Yamashita T, Sekijima Y, Koike H, Ueda M, Yoshinaga T, Kodaira M, Sobue G, Katsuno M, Singh T, Hashimoto Y, Kadam K, Hou A, Ando Y. Patisiran,

- an investigational RNAi therapeutic for patients with hereditary transthyretin-mediated (ATTRm) amyloidosis: phase 3 APOLLO study subanalysis of Japanese patients. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3,26-28, 2018.
- 16) Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Kametani F, Okumura N. Production and biochemical analysis of mutated fibrinogen A_α produced by CHO cells with 523 AGTC in *FGA* 'Japan original mutation'. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.
- 17) Yoshinaga T, Yazaki M, Kametani F, Uehara T, Komatsu O, Sekijima Y. The First Case of Wild-Type Cystatin C Amyloidosis identified from Granulomatous Amyloidoma in the Rectum. XVI International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, Japan, 3, 26-28, 2018.
- 18) Sekijima Y: Cardiac ATTR Amyloidosis. 2nd Cardiac ASH conference, Seoul, Korea, 10,20-21, 2018.
- 19) Sekijima Y: Clinical Diversity of ATTR Amyloidosis. 2nd Cardiac ASH conference, Seoul, Korea, 10,20-21, 2018.
- 20) Sekijima Y: Pathogenesis and Therapeutic Strategy for ATTR Amyloidosis. The 12th Institute for Biomedical Sciences International Symposium, Matsumoto, Japan, 1,21, 2019.
- 21) 江澤直樹,加藤修明,小口和浩,吉長恒明,矢崎正英,関島良樹: 全身性アミロイドーシスにおける 11C-PiB-PET の多臓器アミロイド沈着評価. 第 59 回日本神経学会学術大会,札幌, 5,23-26, 2018.
- 22) 小平農, 大橋信彦, 森田洋, 関島良樹: トランスサイレチン型 FAP 患者における体幹部長さ依存性細径線. 第 59 回日本神経学会学術大会,札幌, 5,23-26, 2018.
- 23) 吉長 恒明, 矢崎 正英, 亀谷 富由樹, 関島 良樹: ドミノ肝移植レシピエントにおける医原性アミロイドーシスの臨床病理的検討(第 2 報). 第 59 回日本神経学会学術大会,札幌, 5,23-26,2018.
- 24) 大橋信彦, 小平農, 森田洋, 関島良樹:ATTR-FAP 患者が CIDP と誤診される電気生理学的ピットフォール. 第 59 回日本神経学会学術大会,札幌, 5,23-26, 2018.
- 25) 加藤修明, 阿部隆太, 江澤直樹,宮崎大吾, 関島良樹: AL アミロイドミオパチーの診断、臨床像、病理像、およびアミロイドイメージング所見. 第 59 回日本神経学会学術大会,札幌, 5,23-26,2018.
- 26) 関島良樹: 教育セミナー「著名な自律神経症状を呈した 71 歳男性」. 第 142 回信越地方会,新潟,6,3, 2018.
- 27) 関島良樹: 全身性アミロイドーシス update. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.
- 28) 加藤修明,上野晃弘,小平農,関島良樹: AL アミロイドーシス治療に伴うボルテゾミブニューロパチーの病像と電気生理学的特徴およびその発症予測因子. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.
- 29) 吉長恒明,矢崎正英,上原剛,亀谷富由樹,関島良樹: 野生型シスタチン C 型 アミロイドーシスを呈した消化管アミロイドーシスの一例(続報). 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.
- 30) 上野晃弘,加藤修明,関島良樹: 再発性/難治性全身性 AL アミロイドーシスに対するレナリドミド-デキサメサゾン療法の有効性. 第 6 回日本アミロイドーシス研究会学術集会, 松本, 8,25, 2018.
- 31) 春日一希,大橋信彦,高曾根健,加藤修明,関島良樹: 末梢神経障害を契機に診断された AH アミロイドーシスの 76 歳、男性例. 第 226 回日本神経学会関東・甲信越地方会,東京, 9,1, 2018.
- 32) 大橋信彦,小平農,森田洋,関島良樹: CIDP と誤解釈されうる ATTR-FAP の電気生理学的ピットフォール. 第 29 回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 9,7-8, 2018.
- 33) 植田光治, 関島良樹, 三隅陽平, 増田曜章, 矢崎正英, 小池春樹, 山田正仁, 山下太郎, 安東由喜雄: 全国疫学調査を基にした家族性アミロイドポリニューロパチーの実態解明. 第 29 回日本末梢神経学会学術集会, 下関, 9,7-8, 2018.
- 34) 関島 良樹: アミロイドーシスの病態に基づいた疾患修飾療法の開発. 第 91 回日本生化学会大会, 京都, 9,24-26 ,2018.
- 35) 加藤修明,上野晃弘,関島良樹: Impact of lenalidomide-dexamethasone for patients with pretreated systemic light-chain amyloidosis. 第 80 回

日本血液学会学術集会,大阪, 10,12-14, 2018.

- 36) 小平農,大橋信彦,森田洋,関島良樹: トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチー患者と健常者における体幹部A δ 線維機能の差. 第48回日本臨床神経生理学学会,東京, 11,8-10, 2018.
- 37) 大橋信彦,小平農,森田洋,関島良樹: ATTR-FAP患者がCIDPと誤診されうる電気生理学的ピットフォール. 第48回日本臨床神経生理学学会,東京, 11,8-10, 2018.
- 38) 加藤修明,上野晃弘,大橋信彦,小平農,関島良樹: ALアミロイドーシス治療に伴うボルテゾミブニューロパチーの病像と電気生理学的特長およびその発症予測因子. 第36回日本神経治療学会学術集会,東京, 11,23-25, 2018.
- 39) 池田淳司,大橋信彦,渡部理恵,佐藤俊一,関島良樹,池田修一: 本邦初の生体部分肝移植を受け、発症から27年間生存している遺伝性ATTRアミロイドーシス患者の治療経過. 第36回日本神経治療学会学術集会,東京, 11,23-25, 2018.
- 40) 関島良樹: アミロイドーシスと感染症 - アミロイドーシスの伝播を中心に -. 第23回日本神経感染症学会総会・学術大会, 東京, 10,19-20, 2018.

田原宣広

- 1) 田原宣広, 枚山陽一, 中村知久, 戸次宗久, 孫佳慧, 本多亮博, 田原敦子, 福本義弘: 高齢者における肺動脈性肺高血圧症. 第29回日本Pediatric Interventional Cardiology学会学術集会, JPIC-CVIT ジョイントシンポジウム「肺高血圧合併心疾患に対する治療戦略: 小児期から高齢者まで」, 福岡, 1, 18-20, 2018.
- 2) 田原宣広, 戸次宗久, 中村知久, 本多亮博, 田原敦子, 枚山陽一, 孫佳慧, 井形幸代, 上野高史, 福本義弘: Evaluation of vascular inflammation by FDG-PET in adult patients with a history of Kawasaki disease and coronary artery lesions. 第82回日本循環器学会学術集会, シンポジウム: 川崎病既往成人の冠動脈病変の病態の評価と管理, 大阪, 3, 23-25, 2018.
- 3) 田原宣広, 戸次宗久, 中村知久, 本多亮博, 田原敦子, 枚山陽一, 孫佳慧, 井形幸代, 福本義弘: Strategies for the diagnosis of cardiac amyloidosis. 第82回日本循環器学会学術集会, トピック: どう診

る、どうする、拡張不全! ~病態、診断、治療の最前線~, 大阪, 3, 23-25, 2018.

- 4) Honda A, Tahara N, Tahara A, Igata S, Bekki M, Nakamura T, Sugiyama Y, Igata S, Yamagishi S-I, Fukumoto Y: Effects of Anti-hypertensive Therapy on Cerebral Glucose Metabolism and Blood Flow in Patients with Essential Hypertension. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 3, 23-25, 2018.
- 5) 戸次宗久, 田原宣広, 中村知久, 枚山陽一, 孫佳慧, 本多亮博, 井形幸代, 田原敦子, 野口輝夫, 福本義弘: Comparison of T1WI signal and the FDG activity within coronary. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 3, 23-25, 2018.
- 6) 枚山陽一, 田原宣広, 井形幸代, 中村知久, 戸次宗久, 本多亮博, 田原敦子, 福本義弘: Long Term Survival of Patients with Pulmonary Hypertension at A Single Center. 第82回日本循環器学会学術集会, 大阪, 3, 23-25, 2018.
- 7) 田原宣広, 本多亮博, 田原敦子, 戸次宗久, 枚山陽一, 孫佳慧, 中村知久, 井形幸代, 福本義弘: 血管内皮機能と血管炎症の関係. 第18回日本NO学会学術集会, シンポジウム NO・内皮機能による心血管病の診断・治療の進歩, 京都, 5, 17-18, 2018.
- 8) 伊東智樹, 枚山陽一, 高橋甚彌, 大淵綾, 仲吉孝晴, 大塚昌紀, 飛永覚, 田原宣広, 田中啓之, 福本義弘: 当院で初めて肺動脈血栓内膜除去術を実施した一例. 第321回日本内科学会九州地方会, 久留米, 5, 19, 2018.
- 9) 本多亮博, 田原宣広, 戸次宗久, 中村知久, 平方佐季, 熊埜御堂淳, 高瀬文敬, 高木数実, 田中啓之, 福本義弘: 未治療の先端巨大症に合併した僧帽弁逸脱症に対して外科的治療を行った一例. 日本超音波医学会第91回学術集会, 神戸, 6, 8-10, 2018.
- 10) 田原宣広, 本多亮博, 田原敦子, 戸次宗久, 枚山陽一, 孫佳慧, 中村知久, 井形幸代, 福本義弘: 肺高血圧症治療のNext Stage. 第3回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, ランチョンセミナー5, 大阪, 6, 22-23, 2018.
- 11) 枚山陽一, 田原宣広, 中村知久, 戸次宗久, 本多亮博, 孫佳慧, 田原敦子, 井形幸代, 熊谷英太, 福本義弘: セレキシパグ導入が困難だった特発性肺動脈性肺高血圧症の一例. 第3回日本肺高

血圧症・肺循環学会, 大阪, 6, 22-23, 2018.

12) 枚山陽一、田原宣広、中村知久、戸次宗久、本多亮博、孫佳慧、田原敦子、井形幸代、熊谷英太、福本義弘: 当院における肺高血圧症の長期予後. 第3回日本肺高血圧症・肺循環学会, 大阪, 6, 22-23, 2018.

13) 枚山陽一、田原宣広、中村知久、戸次宗久、本多亮博、孫佳慧、田原敦子、井形幸代、福本義弘: 当院における肺高血圧症の長期予後. 第124回日本循環器病学会九州地方会 YIA セッション, 鹿児島, 6, 30, 2018.

14) 田原宣広: 川崎病既往者の成人期における血管炎症の評価 ~FDG-PET/CT を用いた検討 ~. 第27回日本心血管インターベンション治療学会学術集会, 日本川崎病学会合同セッション 川崎病心合併症の発生状況と遠隔期治療, 神戸, 8, 2-4, 2018.

15) 本多亮博、田原宣広、戸次宗久、中村知久、枚山陽一、井形幸代、福本義弘: PET 検診を契機に2次性高血圧の確定診断に至った一例. 第66回日本心臓病学会学術集会, 大阪, 9, 7-9, 2018.

16) 本多亮博、田原宣広、田原敦子、戸次宗久、中村知久、枚山陽一、新田良和、井形幸代、福本義弘: 高血圧治療が、脳血流および脳代謝活性にもたらす影響—脳血流 SPECT と FDGPET/CT を用いた検討—. 第8回認知症予防学会学術集会, 東京, 9, 22-24, 2018

17) 本多 亮博、田原 宣広、田原 敦子、戸次 宗久、中村 知久、枚山 陽一、新田 良和、井形 幸代、福本 義弘: 高血圧治療が血管内皮機能、血管炎症、血圧変動に及ぼす影響について. 日本超音波医学会第28回九州地方会学術集会, YIA, 福岡, 10, 28, 2018.

18) 田原宣広、枚山陽一、中村知久、戸次宗久、田原敦子、前田詔子、孫佳慧、本多亮博、井形幸代、福本義弘: 肺高血圧症における右心機能. Cardiovascular and Metabolic Week 2018 第40回 心筋生検研究会, 東京, 12, 7-8, 2018.

19) 戸次宗久、田原宣広、仲吉孝晴、中村知久、枚山陽一、孫佳慧、本多亮博、井田幸代、田原敦

子、野口哲夫、福本義弘: 冠動脈プラークにおける FDG-PET と非造影 T1 強調 MR 画像の比較. 第29回日本心血管画像動態学会 シンポジウム: 冠動脈疾患における分子イメージング, 久留米, 1, 25-26, 2019.

20) 田原宣広、戸次宗久、田原敦子、新田良和、本多亮博、井形幸代、枚山陽一、前田詔子、孫佳慧、中村知久、仲吉孝晴、福本義弘、上野高史: 冠動脈病変における炎症活動性評価- FDG-PET/CT を用いた検討 -. 第29回日本心血管画像動態学会・第88回日本心臓血管放射線研究会 合同シンポジウム: 循環器画像診断の新たな展開, 久留米, 1, 25-26, 2019.

21) 戸次宗久、田原宣広、田原敦子、枚山陽一、緒方詔子、本多亮博、井形幸代、中村知久、孫佳慧、山岸昌一、福本義弘: Switching DPP-4 Inhibitors to Tofogliflozin, a Selective Inhibitor of SGLT2 Improves Arterial Stiffness Evaluated by CAVI in Patients with Diabetes. 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3, 29-31, 2019.

22) 田原宣: 心不全診療における分子イメージングの有用性. 第83回日本循環器学会学術集会, ランチョンセミナー13 慢性心不全診療における画像モダリティの活用, 横浜, 3, 29-31, 2019.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

畑 裕之

発明の名称: 多発性骨髄腫治療用医薬用組成物
出願番号: 特願 2018-097003

出願日: 2018年05月21日

出願人: 国立大学法人 熊本大学

発明者: 松岡 雅雄, 河野 和, 畑 裕之

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。